

No.21 >>> Contents

●提携支援センターから

秩父の繭 “いろどり” で伝統の手技を紡ぐ

..... 蚕彩会 事務局 秋山 徹 ————— ①

甲斐絹の復興と提携グループ結成により地域を活性化

..... 甲斐絹グループ 代表 前田 市郎 ————— ⑤

“地元の繭で、きもの” の夢を実現

————— ⑨

平成 23 年度第 3 次純国産絹マーク使用許諾状況

..... 社団法人 日本絹業協会 ————— ⑬

提携支援センター活動日誌 No. 21

————— ⑯

●今月の話題

日本最大の絹産地で養蚕からスタートし純国産反物を作る試み

..... 丹後織物青年団体協議会 会長 柴田 祐史 ————— ⑰

●国内情報

シルク遺産を訪ねて① 埼玉県入間市の西洋館

..... 東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ————— ⑳

●海外情報

2011 年国際シルクフォーラムに出席して

... (財) 中央果実基金理事長 (日本絹業協会顧問) 吉國 隆 ————— ㉔

●トピックス

国内産地情報、海外情報 (中国)

————— ㉓

●横浜開港とシルク貿易

ハンカチーフ製造から始まった横浜スカーフ産業

..... シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ————— ㉗

●イベント情報 ————— ㉙

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ————— ㉙

●蚕糸関係博物館一覧 ————— ㉙

●蚕糸関係団体ホームページ一覧 ————— ㉙

●統計資料 ————— ㉙

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

秩父の繭 “いろどり” で伝統の手技を紡ぐ

蚕 彩 会

事務局 秋山 徹

蚕彩会（さんさいかい）の誕生

日本の繭から作られた、純粋な日本の絹が消滅しようとしています。

このことは、われわれ“きものの指導者”を養成している、「装道礼法きもの学院」にとっても、衝撃的な事実でした。当学院は、きものの着装や文化などを教える指導者“きものコンサルタント”を育てることにより、和装振興とその市場の底辺拡大を図ることを目的として、47年前に開校されました。現在では、当学院で学ばれた方々が、全国各地で教室を開き指導に当たっていますが、その数は3,000教室以上に上ります。

われわれの使命は、伝統的な和装の文化と、その現状を広く伝えることにありますので、今日の純国産絹の危機的な状況を紹介することは義務でもあります。

しかし、この現状を伝えるだけではなく、他にわれわれが出来ることがあるのではないかと、アクションを起こすことの必要性を感じているときに、“蚕糸・絹業提携支援センター”より「蚕糸・絹業提携システム」のご案内をいただき、このプロジェクトに

参加させていただくことになりました。

グループの名称は、埼玉県（彩の国）秩父産の蚕の繭“いろどり（彩り）”を扱うことから「蚕彩会（さんさいかい）」としました。



上簇した“いろどり”の繭

フラボノイドの宝庫 “いろどり”

「蚕彩会」が、扱うことになった“いろどり”は、平成七年に旧埼玉県蚕業試験場で育成された、ちちぶ農協ブランド品種繭で、日本種と中国種の二元交雑種です。繭の色は笹色の淡緑色をしており、繭糸の太さは2.6デニール内外で繭糸長は1,337m、糸質は良好であり、糸の太さの割にはこし

が強い繭ですが、なんといっても“いろどり”最大の特徴は、そのフラボノイドの含有量の多さにあります。

天然ポリフェノールであるフラボノイドは、その抗酸化作用や紫外線の遮蔽効果などの機能性が着目され、美白やアンチエイジング効果の作用があるとして、化粧品の原料としても使用されているものです。

“いろどり”の色が淡緑色なのは、このフラボノイドを多量に含んでいるという証でもあります。また、われわれ「蚕彩会」の他に“いろどり”の繭を扱うグループが、化粧品や石けんをはじめとして、肌着、真綿布団、布団カバーなどの直接肌に触れる製品を作っている点からも、“いろどり”が人の肌に優しい繭であることを示しています。

当然、われわれ「蚕彩会」が制作するきものの着尺反物や帯も、直接人の肌に触れるものですので、肌に優しい素材でできたきものや帯は、消費者にとって魅力的な製品となります。

この“いろどり”の特性については、化粧品への利用化を研究された蚕糸科学研究所の清水重人所長と、“いろどり”の蚕種管理と稚蚕育成をされている蚕業技術研究所の井上元所長の両所長に、学術的な見地から直接お話を伺いする機会がありました。また、当学院の会員会報誌である「月刊装道／7月号・8月号」に両氏より、それぞれ寄稿いただいて、広く会員に認知してもらうことが出来ました。

秩父の“いろどり”養蚕

「蚕糸・絹業提携システム」の利点は、川上から川下、蚕業から絹業（メーカー）



JA ちちぶの養蚕家・宮崎豊二さん

及び消費にいたる業界の人間が、直接顔を合わせることが出来きて、グループを形成することにあります。

「蚕彩会」で繭の集荷と発送までを担当していただく、埼玉製糸協会の小林嘉朗会長の先導で、昨平成 22 年 9 月に秋蚕飼育準備中のちちぶ農協と養蚕農家を訪問し、本年 5 月中旬には、春蚕の“いろどり”が上簇された時期に、再び訪問してお話を伺うことができました。

この時印象に残ったのは、養蚕家の方々が蚕に注ぐ愛情の深さです。「蚕彩会」の“いろどり”の約半数を飼育いただく養蚕家の宮崎豊二さんは“お蚕さん”は、高貴な虫だね。簇に上がって、自分の枠を決めると、最後の糞と尿をしてから、繭を作り始める。とても行儀が良いね」と慈しむように“お蚕さん”を語りながら、回転簇から落ちてしまった“お蚕さん”を一頭一頭拾い上げていました。

ここ秩父で「蚕彩会」は毎年 500kg の“いろどり”の養蚕をお願いします。

山形酒田“庄内”の製糸

「蚕彩会」の繭は、秩父から酒田市の松岡株式会社に送られ生糸となります。7 月



「松ヶ岡開墾場」を抱く月山

末に酒田の本社・工場にお伺いし、製糸ひとすじでやってこられた遠田寿之監査役に工場を案内していただきました。

松岡株式会社は、全国に七カ所となってしまう製糸工場を操業する数少ない企業のひとつです。松岡株式会社の創立は、戊辰戦争に敗れた後の明治四年の鶴岡／庄内藩に遡ります。廃藩置県を迎えた庄内藩では、禄を失った元藩士達が刀を鋤・鍬に持ち替え一丸となって、月山山麓後田村の広大な山林の開墾を行いました。後に「松ヶ岡開墾場」と呼ばれた同地では、桑が植えられ、養蚕が始まり、製糸が営まれました。昭和12年に本社と工場が現在の酒田市松嶺町に移転され、松岡株式会社として今日に至っています。企業の中核は製糸から他の部門になっていますが、氏家昇一社長の「祖先の武士たちの魂を思うとき、たやしてはならないと言う熱い気持ちになってきます」（会社案内から）という言葉からも、製糸という創業の灯火は決して消さないという気概と挟持を感じる製糸の現場でした。

ここ松岡株式会社で「蚕彩会」「いろどり」繭500kgは、選繭から乾繭、製糸され約90kgの生糸になります。



松岡株式会社の製糸現場

京丹後での製織

「蚕彩会」での絹業の部分（製織・染めなど）を総合的に担当される有限会社酒井の酒井進社長に案内されて、7月中旬に京丹後市網野町にある製織業の株式会社匠を訪れました。

株式会社匠は、長い歴史を持つ製織会社が廃業した後に、社員の有志が再建したもので、昔ながらの広大な工場には、今は必要なだけの機械が稼働し、少人数で操業されていますが、働いている方々の熱意が充満している工場でした。社長の末次広夫さんは「今は挑戦者ですので、昔の通念には全くこだわっていません。極端に言えば白生地1本からでも、注文があれば、それに応えていくようなつもでやっています。少人数ですが、一人が何役もこなせる人達が帰ってきていて精鋭集団です。昔の高品質を保ちながら、新しい発想と企画で、もの作りをしたいと思います」と述べられ、京丹後では厳しい時代の中での“ものづくりの覚悟”を聞いたように思います。最後に末次社長が「いろどり」を整経する時は綺麗ですよ、うすい笹色の糸が何百本と張られている姿には、見とれてしまいます」と言われていて、今回は必ずその場面を見て

みたいと願いながら、京丹後を後にしました。

ここ株式会社匠で「蚕彩会」の“いろどり”生糸 90kg は、最大で、きもの着尺用白生地 40 反・帯用白生地 100 反となります。



株式会社匠で整経される生糸

白生地以降

—伝統という名の付加価値を重ねる—

茨城の蚕業研究所での蚕種・稚蚕飼育を経て、四軒の秩父養蚕農家で繭へ育ち、酒田の松岡株式会社で生糸にひかれ、京丹後の株式会社匠で機に織られて、“いろどり”は白生地となりました。

この純国産で作られた白生地を、どう加工して消費者に提案するかですが、これは、比較的スムーズに方向性が決まりました。この純国産にこだわって作られた白生地は、その 140 反という希少性、また作られた過程からしても、日本古来の伝統の技法を守り続けている染色法で染め上げるしかないということです。

われわれが数ある伝統的染色法の中から、最初に試作を試みたのが、伝統的手法で作られた徳島産蓼藍の染料“菜”を使った“天然灰汁醗酵建てによる本藍染”です。天然素材のみを使って染師矢野藍秀さんに

よって染められる本藍染は、百年以上の時をかけて、その色をより鮮やかにするといわれます。

もしかすると、無くなってしまうかもしれない純国産絹に本藍染という鎧を纏わせ守るというイメージでの試作でしたが、藍染最高の色、素晴らしい“かち色”の反物が出来上がりました。

純国産絹の生産は伝統を守ることです。ですからそれには、さらに日本古来の伝統の技法を施し、付加し、重ねて、その価値をより高める必要があります。しかし、適正価格でそれを提供することが肝要です。

伝統とは、“統＝代々受け継がれて一続きとなっているもの”を次代に伝えていくことです。そして伝統は、人と人の手技と手仕事の集積によって成り立っています。

きものを装う人もまた、人から人へ、親から子へ、孫へ、と受け継がれてきたきものに袖を通すことにより、その心を身にまとうのです。

将来きものが日常の必需品となることはないでしょう。しかし、時として人の精神的な糧、喜びの源となるものは、非日常の品に触れることであることもあります。それは民族的なものであり、日本的なもの、伝統的なものであることが多いように思われます。

きものは、そのひとつであると思います。日本のきもののため、純国産絹は作られ続けなければなりません。

あきやま とおる

蚕彩会 事務局

装道礼法きもの学院 月刊「装道」編集室

甲斐絹の復興と提携グループ結成により地域を活性化

甲斐絹グループ

代表 前田市郎

1. 郡内（山梨県・富士北麓東部地域）における甲斐絹の歴史

先ず始めに郡内地域における甲斐絹（かいき）の歴史という観点から見た場合、甲斐の国の織物の発祥と沿革から簡単に説明をする必要がある。

最初に郡内織物が文章に残る物は「延喜式」による一文がもっとも古く「遠江、駿河、伊豆、甲斐・・・・・・・・大隅、薩摩以上 28ヶ国其の制するところの布を以て調庸となす」と記述されている。当時は藤や葛や麻の繊維を織った物を献上していたようである。

甲斐絹（海気）は元々、元亀・天正年間から慶長年間にかけて南蛮渡来の先染の絹織物であった。郡内の甲斐絹が一番隆盛を極めたのは江戸時代の享保年間から元禄・文化文政にかけてであった。井原西鶴や近松門左衛門の文章の中に「郡内縞」という表現で何度も出てきている。主な用途としては羽織の裏地や布団地などであった。（甲斐絹という言葉は明治の初年に初代山梨県

令藤村紫朗氏によってつけられた。）その後明治・大正と昭和初期まで生産されてきたが、戦後、化学繊維の発達とともに時代の波間に姿を消してしまった。

2. 甲斐絹座立ち上げの経緯と提携グループ（甲斐絹グループ）の結成

甲斐絹座は、当初、平成 14 年に（株）前田源商店、（有）田辺織物、（株）榎田商店、山崎織物（株）の 4 社によって立ち上げられた同業種のグループである。このグループ化は、山梨県幸住圏計画に基づいたビジュアルズインダストリーの考え方をもとに、山梨県を訪れる観光客などの方々に当地の地場産業である織物製品を広く周知しビジネスの機会を創出する目的で集まった。しかし、各社の製品を集め一般的な展示販売で並べるだけでは全然売れず。逆に商品価値を低下させてしまった時期もあった。

このため、関係者の協力を得て的確なアドバイスの下に 3 年有余に亘り地道な勉強会を行ってきた。

その結果、現在、我々が織物の仕事をし

ているのは何故なのかということになり、甲斐絹の歴史や伝統に加え、それを作ってきた技術の蓄積の上に、今日の織物製品の製造が成り立っていることに気づいた。

そこで、現在では絶えてしまっている甲斐絹を山梨県産繭を使った生糸で復刻し、現代でも通用する製品を作っていこうということにメンバーの考えが行き着いた。

平成 19 年度には地域資源活用プログラムに基づく計画策定を行い認定業者になったことにより、製品開発や販路開拓においてスピードアップが図れ、平成 21 年 11 月 18 日付けで株式会社甲斐絹座を設立した。

同時に繭の流通システムが大幅に変更され、糸商から直接生糸を購入するのではなく、山梨県内にあるそれぞれの J A と個別に契約し製糸工場や織物業者などで構成される「蚕糸絹業提携システム」に沿った対応をして行かなくてはなくなり、当甲斐絹座においては 2 名のメンバーを「蚕糸絹業提携システム」のコーディネーターとして

登録し、山梨県内の養蚕業者及び J A、長野県の松沢製糸所などと「甲斐絹グループ」を結成し、提携グループとして平成 23 年 1 月 19 日付けで承認された。このことにより山梨県産繭による安定的供給の裏付けが取れ、安心して甲斐絹の復刻が出来る様になった。

3. 甲斐絹座の現状と今後

永年に亘って、グループメンバーで研究を重ね、少しずつ様々な種類の甲斐絹を復刻してきた結果、先染の特徴が顕著に生かせる玉虫甲斐絹の復刻を始めた。これにより、当甲斐絹座の今日の織物製品の基礎となる玉虫甲斐絹をコンセプトの中心に位置づける発想がまとまった。現在では、この玉虫甲斐絹は 50 色位の色のバリエーションがストック出来るまでになった。

この玉虫甲斐絹による製品では、「かいき」シリーズとしてネクタイ、クッション、バッグ、傘をはじめとした製品を手掛けてきたが、平成 21 年度からはインテリア分野への進出を図るため、新たに「hengen」



養蚕の現場



復刻した玉虫甲斐絹で作ったネクタイ



スカーフ

というブランド名で玉虫甲斐絹の特徴を十分に活かしたスカーフ、ランプシェード、ウォールパネル、P Cクッションなどを試作し、新たな展開への足がかりとした。

さらには、平成 23 年 1 月 21 日～ 25 日、フランスのパリで開催された「メゾン・エ・オブジェ展」に出展し大変好評を博した。

特に欧米に於いてはデザインもさることながら日本製のシルクに対する評価が非常に高いのには驚いた。

また、海外の展示会については商談の準備や輸出方法などの確認を行っておけば国内のビジネスよりも確実に販路開拓が出来



ランプシェード

るとの感触を掴んだ。

(株) 甲斐絹座としての今後は、提携システム構築による、山梨県産繭の安定的供給を踏まえ主に次の 3 つの柱で展開を行っていきたいと思っている。

- ① 「hengen」や「かいき」などのブランドを通じて復刻した「甲斐絹」に新たな息吹を送り、現在に通用する製品を作って販売していくこと。
- ② 甲斐絹を教材にすることにより、この地域で生まれ育った子供達が、素材としての本物の絹の質感や手触り、風合いなどを常日頃より触れることが出来、本当



メゾン (ブース)



メゾン (商談風景)

のものを極める感性が養われるのではないかと考えている。さらに、蚕糸業を背景に培われてきた地域文化や伝統文化を支える重要な産業への認識と、一連の繭から織物が出来るまでの仕事の流れも知識として培われる。また、山梨県産の繭で甲斐絹を復刻することで、養蚕から織物生産、消費という一連の安定的流れが出来、繭の需要が増え喫緊の課題である養蚕農家の減少にも歯止めがかかる一助となればと考えている。

- ③ 本来、「甲斐絹」などが使用されてきた「茶道」の仕覆や袋物の裏地や袱紗、懐紙入れ等を開発し、普及を図ること、また元来布団の生地にも使われていた経緯を踏まえて、座布団等にもしっかり普及させて行くこと。

最後に、(株)甲斐絹座は、存在意義のある甲斐絹を生産し新たな用途や価値を創造していくとともに、教育現場とも連携しながら地域の歴史と伝統を踏まえた甲斐絹を若い世代の人々に伝えていくことの責務を感じている。

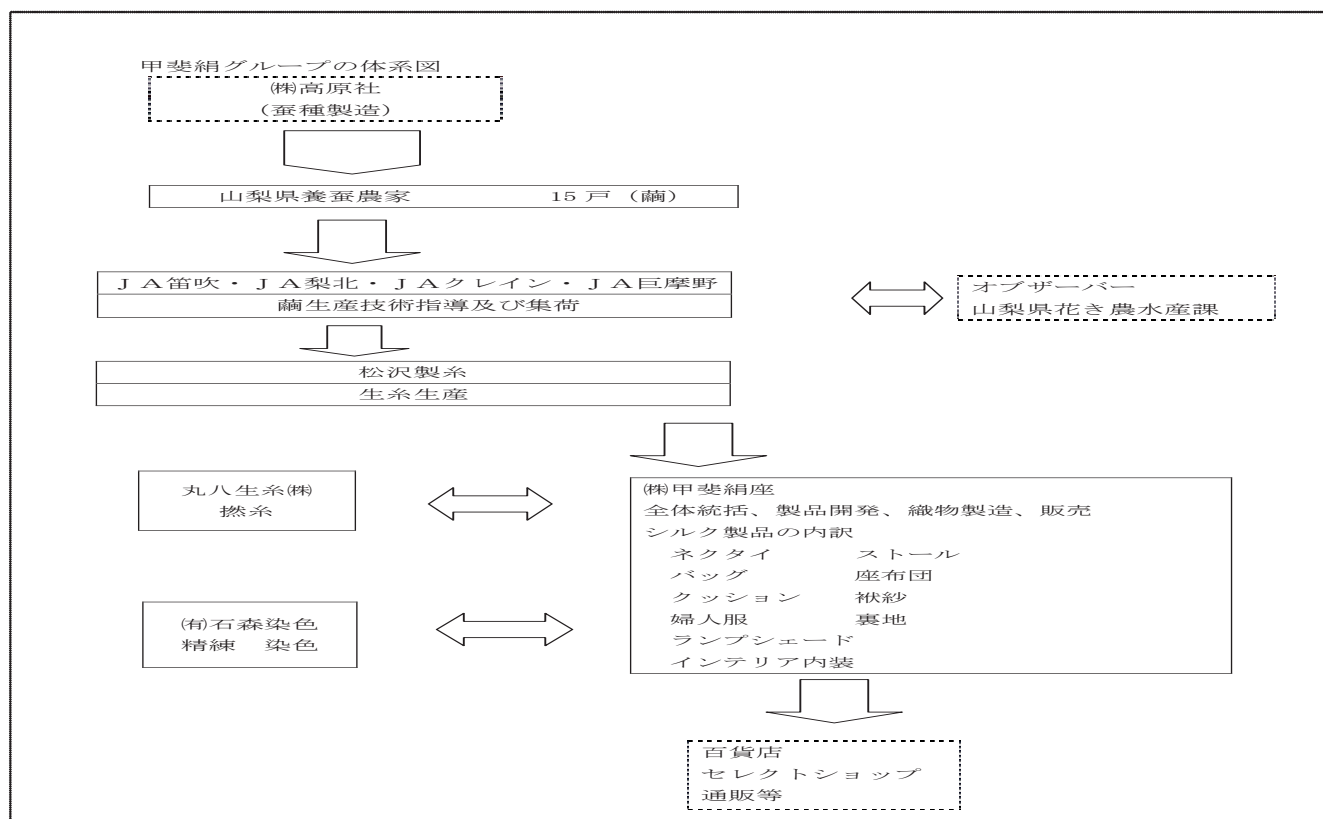
<参考文献>

- ・郡内機業と山梨県繊維工業試験場
— 80年の歩み — 山梨県繊維研究会
- ・富士北麓・東部地域の産業史
富士吉田商工会議所

まえだ いちろう

甲斐絹グループ 代表

(株)甲斐絹座 代表取締役



“地元の繭で、きもの” の夢を実現

— 「日本絹文化振興会」・株式会社「坂本屋」

代表 飯塚康二さんを訪ねて—

創業 88 年、老舗の呉服店

去る 10 月 10 日の祝祭日、茨城県荒川沖の駅前通りは、きものを着飾った老若男女が行き交い、時ならぬ華やかな賑わいをみせていた。

創業 88 年を迎え、当代三代目が当主の大型和装販売店「坂本屋」の“米寿祭”が 10 月 8 日から 17 日まで開催され今日はその中日である。

お忙しいなか、早速三代目の当主飯塚康二さんに話を伺った。

『そもそも私のところが、提携支援事業のグループにお声掛けいただいたのは、先代久二が提携支援グループ「日本絹文化振興会」の代表を務められている堀留の大手問屋の株式会社「丸上」と 50 年来のお付き合いがあったからだと思います。

もともと、私は地元の養蚕家の方々が丹精を込めて作った繭から最終商品である反物までつくりあげ、地元のきもの好きの方たちに着ていただいたらどんなに素晴らしいことかと、そんな“夢”を描いていました。

ただ、以前は、生産された繭は一括して J A 全農茨城が扱っており、いくら地元の



極細 1 号（本会蚕業技術研究所が育成）の糸を使った「白地綾」のきものを 88 周年で特に販売

繭とはいえ我々呉服屋だけで、どうこうできるものではありませんでした。

ところがここ数年で情勢は変わり、丸上さん、また以前からいろいろと取引のあった白生地問屋「幸和」の梅田幸平さん、県下下大津で全令桑育を指導する沢辺和夫さん、地元養蚕組合長の松澤喜昭さんみなさんのお骨折りで川上（養蚕）から川下（和服販売）まで一体化された提携グループがつくられ、念願の“地元の繭できものを”が実現したわけです。』

それでは、この辺で原点に戻って、坂本屋さんが 88 年も前にこの土浦（荒川沖）



“和装文化”の情報発信基地ともいえる「夢の蔵」

で呉服屋を創業された理由は、何だったのだろうか。

康二さんによると、祖父の飯塚静夫さんが藤代からの行商で荒川沖（かつては、繭の町土浦の玄関口として栄えていた）に立ち寄った際、当時 1,000 人からの女工さんで、大層なにぎわいだった岡谷館製糸所荒川沖工場（通称、岡谷館）を目の当たりにし、ここに店を持つ決意を固めたという。

時は巡り、隆盛を誇ったかの岡谷館も廃業して既に 70 年が経ち、現在ではその面影を朽ちかけた建物の一部に残すのみである。

新機軸を連発する三代目

実は三代目の康二さん、大学の建築科を卒業、東京で建築設計事務所を構えていたが、久二さんに呼び戻される。

建築設計の夢捨てがたく、当初は、荒川沖に設計事務所を構え、坂本屋の方は経理面をみるといういささか、半身構えの中途半端なスタートとなった。

これではいけない。半身構えでは、どちらも中途半端になり、共倒れになる恐れさえある。康二さんの決断は早かった。80 年以上も続いたこの家業の呉服屋一本に絞る決意を固めた。あるいは平易だったかもしれない設計事務所をたたみ、退路を断ったのである。

しかし、その建築設計への情熱は、新店舗の設計に遺憾なく発揮され、大断面木工造 2 階建て内外の空間には、康二さんの想い、そして工夫の数々がそこかしこに生かされている。

その建物の名称がまたユニークだ。

名付けて「夢の蔵」という。「夢の蔵」とは“きもの好き”の顧客に、間口を広げ、きもの着装のきっかけをつくり、一人でも多くの人に「きもの」を楽しんでもらえる空間を提供しようと考え出された文字どおりの「蔵」である。

その柱は 4 本。「着・遊・誂・縁」である。

着・・・「きもの専門店」として、成人式をはじめ、地域の「きもの相談窓口」的役割を自負され、初めてきもの着用に挑



「前面が道路、遠景に古い建物」
往時の隆盛が偲ばれる「岡谷館」の一部



88 周年記念販売会の賑わい

戦される方が楽しく楽に着付けられるような、前結びの着付け教室・「夢の蔵」和学院（着付教室・日本刺繍教室、和裁教室）を開催。こちらの方の講師には、康二さんの奥様の美奈子さんが主体で取り組まれている。

遊・・・「きもの de お出掛けの会」（きものを着て楽しむ様々な催し）、や「たしなみ塾」（きものを 100 倍楽しむ講座、簡単な半衿の付け方）等々、顧客のアイデアをもとに企画ものには特に力を入れ、とにかくお客様にお店に来てもらうこと、蔵の一部はいわば“顧客のサロンのようにお使いいただく”がコンセプトだという。

詠・・・「着」「遊」で、きもの入門された方の次のステップはいよいよ、“あなただけの一枚のきものづくり”、ひととおり、きものたしなみ、また、きもの・帯の色柄をマスターされた方の相談ごとに親身になってお世話する。

縁・・・きものを通しての“縁”を大切に、心と心の結びつきにより、お客様に

必要とされる、「きもの専門店」をめざすこと。

4つの柱をもとに、お客様のニーズとともに前進し続ける「和の情報発信基地」でありたい、というのが店主康二さんの想いなのである。

情報発信で出色なのは、和のかわら版・月刊「きもの生活新聞」の発刊。23 年 9 月号で第 169 号というから、14 年間もの長期間に亘り発行を続けていることになる。まさしく、“継続は力なり”である。

提携支援グループの有力メンバー

そもそも、坂本屋さんの取材が実現した経緯は、冒頭でも触れた、きもの前売問屋の株式会社丸上が代表を務める提携グループ「日本絹文化振興会」の活動を通じ、同社の齋藤清二部長から「若手の経営者で、いろいろなユニークな経営活動を展開し、地元茨城の繭にこだわり、地産地消の絹製品を作り上げ、きもの愛好者を育てている地元密着型の有力呉服店がある。」と紹介されたことが、ことの発端であった。



全令桑育の掃立。その絹糸から織ったきものは光沢、風合いが素晴らしい。

飯塚康二さんは今年で丁度 50 才、「今では設計屋より呉服屋の方がずっと長くなりました。」と笑うが、きもののきの字もわからずに飛び込んだ世界だけに、戸惑いも多かったが、当時はきもの世界の仕来りに疎い面もあり、その分が怖いモノ知らずのユニークな発想につながっているのだろう。

ただ、少しでも疑問に思ったことは、とことん突き止めねば気がすまないという、理科系だましが、時に頭をもたげる。

康二さんはきものを扱うようになって、その大元である蚕の飼い方さらには蚕品種にまで興味が広がり梅田幸平さんと 21 年 5 月に（財）大日本蚕糸会の蚕業技術研究所（茨城県稲敷郡阿見町、井上 元 ^{はじめ} 所長）を訪ねている。さらに、22 年の春には、社長以下坂本屋の若いスタッフ全員が研修のために同研究所を訪れている。

きものの前の絹、絹の前の生糸、生糸の前の繭、繭のまへの蚕、坂本屋の店員さんは全員がその蚕の卵から、見て知っていて最終商品であるきものを販売しているわけである。

やはり、最終商品のきものの知識だけで販売するのとそれ以前の商品の成り立ちまで全てを承知していて顧客に説明するのでは、その販売姿勢の迫力は自ずと違ってきて当然といえよう。



蚕業技術研究所で研修を受ける「坂本屋」のみなさん
(左から 2 人目が康二さん)

現在、（財）大日本蚕糸会が鋭意取組んでいる蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の展開、純国産絹マーク使用の奨励等の狙いは、提携支援事業については、川上（養蚕）から川下（和装販売）を一体化して、関連する全関係者が効果的に提携事業を機能させ安定的かつ永続的に事業を進展させていくことにある。

また、純国産絹マークについては、和装品の生産履歴を明確にし、消費者に安心してきものを求めて頂くというものだが、坂本屋の事業展開の数々は、これら提携事業関連の諸取り組みの原点に基づいたものとして高く評価されよう。

提携支援グループの有力メンバーの 1 人として、地元蚕糸絹業の牽引役を自負されている康二さん。今後益々のご活躍を期待したい。

平成 23 年度第 3 次純国産絹マーク使用許諾状況

—新規製品 6 品目、追加 2 品目に使用許諾—

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 23 年度第 3 回審査会を 8 月 25 日（木）に開催し、今回、11 者（うち、新規使用許諾申請が 4 者で新規製品が 6 品目、使用許諾されている者の製品の追加 2 品目、生産履歴の追加が 1 品目、生産数量の追加 18 品目、製品の変更 2 品目）から申請があり、審査の結果 11 者に対し、9 月 8 日（木）付けで純国産絹マーク使用許諾することとしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社甲斐絹座 代表者名 前田市郎 山梨県富士吉田市下吉田 1503-4 (担当者：前田市郎) Tel 0555-23-2280 表示者登録番号 149	スカーフ	500枚	蚕品種 春嶺×鍾月、錦秋×鍾和 繭生産 山梨県内養蚕農家 製 糸 松沢製糸所 製 織 自社 染 色 (有) 石森染色 加 工 自社
有限会社さいとう呉服店 代表者名 斉藤恭三 千葉県市川市八幡 2-2-4 (担当者：斉藤恭三) Tel 047-336-8088 表示者登録番号 150	後染反物 (色無地・付下)	30反	制作企画 (株) 丸上 繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) 匠 染 色 小林染工房、(株) 路考 意 匠 自社
株式会社西松屋 代表者名 中野喜晴 兵庫県姫路市西二階町 120 (担当者：中野喜晴) Tel 079-224-0529 表示者登録番号 151	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	15反 15反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染 色 高田勝 (株)
株式会社西尾呉服店 代表者名 西尾高行 大阪市福島区吉野 2-13-18 (担当者：西尾高行) Tel 06-6441-1188 表示者登録番号 152	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	15反 15反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染 色 高田勝 (株)
(生産数量の追加、製品の追加) 田中種株式会社 代表者名 田中 隆 大阪市中央区南本町 2-1-8 建本町ビル 3 F (担当者：田中 隆) Tel 06-6261-2091 表示者登録番号 060	後染反物 (小紋) (紋意匠)	(数量の追加) 20反	繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芝井 (株) 染 色 高田勝 (株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加、製品の追加) 田中種株式会社 代表者名 田中 隆 大阪市中央区南本町 2-1-8 建本町ビル 3 F (担当者: 田中 隆) Tel 06-6261-2091 表示者登録番号 060	(製品の追加) 帯地 (九寸名古屋帯)	30本	繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 (株) 織匠田歌
(生産数量の追加) 有限会社ミラノリブ 代表者名 笹口 晴美 群馬県桐生市本町 2-8-26 (担当者: 笹口晴美) Tel: 0277-20-8801 表示者登録番号 003	シルクスカーフ シルクストール	(数量の追加) 300枚 500枚	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 東北撚糸(株) 染 色 今井染色(有) 製 織 自社
	シルクスカーフ シルクストール	(数量の追加) 200枚 300枚	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製糸・撚糸 自社 染 色 自社 製 織 自社
(生産数量の追加、生産履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者: 土井芳文) Tel 027-361-2377 表示者登録番号 021	裏絹 (比翼地)	(数量の追加) 100反	制作企画 絹小沢(株) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 坪金工業(株) 精練加工 (有) 江島屋染工場
	胴裏絹 (群馬羽二重) (ぐんまレビア)	(数量の追加) 2,800枚 5,000枚	制作企画 絹小沢(株) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) カブト 精練加工 (有) 江島屋染工場
	(生産履歴の追加) 寝衣 (おくるみ)	300枚	制作企画 絹小沢(株) (側) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) カブト 精練加工 (有) 江島屋染工場 (詰物) 繭生産 群馬県内養蚕農家 真綿生産 石川彦太郎商店 縫 製 中里諒子

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)	
(生産数量の追加) 株式会社丸万中尾 代表者名 中尾 浩祥 滋賀県長浜市室町 180 番地 (担当者：中尾浩祥) Tel 0749-62-1660 表示者登録番号 028	後染反物 (変一越、小紋) (紋意匠、小紋) (変一越、友禅) (変一越、友禅)	(数量の追加) 60反 120反 60反 30反	蚕品種 繭生産 製 糸 製 織 染 色	春嶺×鐘月、ぐんま 200 JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南うちりめん (株)、小林商店 (株) 一会、柏田屋 (株)、 啓明商事
	後染反物 (小紋、色無地) 帯	(数量の追加) 55反 25本	繭生産 製 糸 製 織 染 色	JA 上伊那管内養蚕農家 (株) 宮坂製糸所 織処丸重 (株) 一会
(製品の追加、生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名 仲田 保司 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者：俵 武司) Tel 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 20枚	繭生産 製 糸 製 織 染色加工	岩手県南部・中部養蚕農家 松岡 (株) 美雲織物 (株) 自社
	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 80枚	繭生産 製 糸 製 織 染色加工	岩手県南部養蚕農家 松岡 (株) (株) 竹林 自社
	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 80枚	繭生産 製 糸 製 織 染色加工	岩手県南部養蚕農家 松岡 (株) (株) 松浦絹織 自社
	後染反物 (色無地)	(数量の追加) 80枚	繭生産 製 糸 製 織 染色加工	岩手県中部養蚕農家 松岡 (株) 加賀グンゼ (株) 自社
	(製品の追加) 後染反物 (黒留袖)	80枚	繭生産 製 糸 製 織 染色加工	福島県・山形県養蚕農家 松岡 (株) (株) 河藤 自社
(製品の変更) 株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座4-8-12 コチワビル3階 (担当者：青江良和) Tel 03-5524-3222 表示者登録番号 011	(製品の変更) 結城紬 ↓ 染織作家作品	6反 ↓ 6反	蚕品種 繭生産 真綿掛 糸取り 製 織	プラチナボーイ 千葉県内養蚕農家 佐藤米子 水野商店 山口治子 ↓ プラチナボーイ 千葉県内養蚕農家 製糸・染織 下井つむぎ庵
(製品の変更、生産数量の変更) 株式会社伊と幸 代表者名 伊藤 公一 京都市中京区御池通室町東入ル 竜池町 448 番地の 2 (担当者：北川 幸) Tel 075-211-2361 表示者登録番号 035	胴裏絹	(数量の減) 600枚 ↓ 100枚	蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	松岡姫 山形県・秋田県養蚕農家 松岡 (株) 岐阜特殊織物 (株)
	(製品の変更) 白生地	200反	繭生産 製 糸 製 織	山形県・秋田県養蚕農家 松岡 (株) 白数織物 (株)

提携支援センターから

提携支援センター活動日誌No. 21 (H23.9.1 ～ H23.10.31)

年月日	活 動 内 容 等
23.9.1	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（栃木県）
23.10.4	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（群馬県）
23.10.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（群馬県）
23.10.20	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)



10月20日開催の（社）日本絹業協会による
純国産絹マーク審査委員会

日本最大の絹産地で養蚕からスタートし 純国産反物を作る試み

丹後織物青年団体協議会

会長 柴田 祐史

“二度と行くまい丹後の宮津、縞の財布が空になる”と唄われた京都府北部の宮津・加悦谷・峰山・網野一帯が丹後ちりめんの里。この地方は大和文化と出雲文化の交流地で、全国的にも有名な多くの古墳群に見られるように、早くから丹後独自の文化が開けていました。1200年前の奈良天平時代にはあしぎぬという絹織物を大和朝廷へ宝物として調貢し、足利時代には精好せいこうや絹紬けんちゅうという名品を織っていた記録があります。

丹後地方、ここは日本で最も多くの絹織物の生産が行われているところです。昭和48年に約1千万反の生産をしていたのをピークに年々減産を重ね今では着物の反物にして約50万反の生産量となっております。

とはいいいましても、日本全国で生産されている着物素材の内60%は丹後ちりめんです。そのシェアを考えると、改めて丹後産地の大きさ、存在意義、立ち位置をしっかり考え、じっくり将来を見据えて行動す

る必要があると考えております。

丹後織物青年団体協議会を発足

現在、どこの絹織物の産地も景気が悪く、抜本的な景気回復策が見えずに混迷しております。

そんな中、丹後では織物業に関わる二代目、三代目を集め、2008年8月12日丹後織物青年団体協議会という会を発足しました。

そこで、私たちは今何を行うべきか？何をすべきなのか？何が出来るのか？を考え悩み検討を行い、自分たちは何をしなければいけないのか？力を分散せずに、一本の結束ある突進力のある活動をするにはどうすればよいのか？などを話し合った結果、産地として生き残っていくために必要な事の一つとして養蚕を掲げました。

絹は永遠に生き残る産業であり、自然との共存を行いながら、日本の伝統を支えています。

この基盤となる養蚕のことを先ず身をも

って体験することにより、絹とは、丹後ちりめんとはということを再確認することとなりました。

養蚕について、ずぶの素人である私たちは、まずは有識者にお話を伺い、勉強するために大日本蚕糸会の安藤様にお世話になる事にしました。

安藤様には丹後までお越しいただき、養蚕についての大卒の勉強会を開催しました。初めて見聞きする事ばかりで、日本が養蚕について大変な研究努力を続け、今日があるという事に気がつきました。安藤さんのお話と、用意していただいた資料により養蚕の大卒について学ぶ事が出来、大変感謝しております。ありがとうございました。

しかし、活字の上でわかったつもりでも、実際は何もわかっていないのが現状です。もともと体で覚えるタイプのメンバーでしたので、実際に養蚕をやってみようという運びになりました。

私が住んでいる与謝野町では、十数年前まで町の事業として全令無菌養蚕の研究が

されており、偶然にもその施設「全令人工飼料育蚕試験室」を町から無料で借りられる事となりました。町長の暖かいご配慮には感謝しております。

そこで、無菌養蚕施設で実際に養蚕をされていた職員の方にお話を伺い、育成方法などを学びました。このとき学んだ育成方法は、全令無菌人工飼料育でしたが、私たちの目指す養蚕スタイルとは少し趣が違うため、無菌養蚕ではなく全令人工飼料育という形で取り組む事となりました。

大変設備が整った環境を得る事が出来、準備などの作業が大幅に減ったため、スムーズに事が運び出しました。

初めての養蚕体験

2010年11月27日、群馬県蚕糸園芸課の狩野様にお世話になり、15,000頭の蚕を飼育する運びとなりました。

今回の養蚕は初めての経験ということもあり、3令までは、大胡町稚蚕人工飼育センターでお世話になり、4令からの蚕を丹後で飼育する事となりました。



大胡町稚蚕人工飼育センターでの打合せ



壮蚕飼育を行った与謝野町の施設



丹後に到着した蚕

この施設は与謝野町が以前、無菌の全令人工飼料育の研究を行うために建てられた施設で、飼育のための設備が全て揃っていましたが、古い施設ということもあり、動き出すと色々不具合もありで、なかなか大変なスタートでもありました。

群馬県からの蚕の搬送は、長時間の車の移動であり、生き物を預かるということで、気温の変化や、車の振動など、様々な事に気を使い、少々気疲れを覚えました。

ようやく丹後に到着し、蚕を施設内に移動し、早速人工飼料を給餌しました。

勉強不足もあり、給餌の細かな方法が分からず、試行錯誤を繰り返しながらの飼育がスタートしました。

気温管理、湿度管理、照明、除菌、マスク、手袋、不慣れな作業を行いながら、始まりました。飼育し始めて驚いたのは、毎日の変化です。1日で見え目が変わるほどの成長スピードで、目を見張るものがありました。さらに飼育するために頂いた、飼育標準表の予定通りに脱皮し、成長していくことで



飼育蚕の脱皮状況の観察

した。

生き物なので、それぞれ個性があり、まばらに大きくなるものだと思っておりましたが、皆揃って成長していく事に感動を覚え、日本の蚕糸技術の高さに感動しました。

日々の給餌作業を行いながら、給餌率の高い給餌方法を模索したり、資料を調べたりして、蚕にとって都合の良い給餌方法などを現場で学んで生きました。あっという間に4令から5令へ向かう脱皮のタイミングとなり、飼食、除湿などの準備に入りました。室内の除湿ではなく、蚕環境の除湿なので、除沙が欠かせないことを学びました。今回の作業では、十分な除湿が行えず、うまく脱皮が行えなかった蚕が多数出ました。大変な作業ではありましたが、人力で助けてやることにしました。

手をかけた甲斐あってか、立派な熟蚕に育ってきました。初めの頃と違い、親睦を深めた蚕たちへの愛情は深まり、とっても可愛い存在に変わってきておりました。こうして養蚕に取り組み、蚕の成長を体感してい



立派に育った熟蚕

くうちに、命の大切さ、生糸の素晴らしさ、一反の反物が出来ることの素晴らしさを体感し感動を覚えました。

蚕を預かってから約2週間で、ほとんどの蚕は繭になり、丹後で軽く乾繭し、後は群馬県の碓氷製糸農業協同組合さんにお世話になり、3.6kgの生糸を得ることが出来ました。

出来上がった生糸は、丹後の無地ちりめんの織元（谷勝織物工場）で古代ちりめん二反と一越ちりめん一反を製織しました。



出来上がった繭



3.6kgの生糸



製織したちりめん3反

ここまでの工程に関わり、丹後ちりめんが一反出来上がるまでの工程の長さ、難しさ、素晴らしさを体感することが出来ました。

出来上がった時に手にした丹後ちりめんは我が子のように感じ、本当に大切なものであり、奇跡の反物とさえ思いました。今ではこの気持ちを消費者の方にどうすれば伝わるかを考え悩んでおります。

お客様の笑顔

別の角度からですが、養蚕にかかわることにより、染色関係者、一般の着物愛好者の方から、養蚕の現場が見てみたい、繭が見たい、などの沢山の声をお聞きし、約20名の方が丹後へ見学ツアーを開催される運びとなりました。この事には大変驚きました。養蚕を見たいと思う方がこんなにもいらっしゃる、こんなにも楽しんでいただける。この出来事は私にとってかけがえのない経験となりました。

今まで技術力や、製品の品質向上などに

全力を注いでおりましたが、実はそうではないのでは？もっと大切なのはお客様の笑顔ではないでしょうか！

この出来事を期に、生産者として、織元として、大きな節目を迎えた気がしております。今回、養蚕が見たいとお声掛けいただけたのは、京都から程近い、丹後地方であるということが大きな要因ではないのか、さらに、日本最大の絹織物の産地であるという事も要因ではないでしょうか。

最近偽装や信用不安の多い中、日本最大の絹織物の産地が、材料である生糸から手がけ、更に日本で着物の流通量が最も多い京都で、養蚕が行われているということは、お客様にとってこれほど安心で、価値観の伝えやすい環境はないのではないかと最近考えるようになりました。

今まで長年に渡り、絹織物に携わりながら、養蚕にかかわって初めて本質が見えてきたように、その気持ち、心、がお客様へしっかりと伝える環境が出来るのではないのでしょうか。

丹後で養蚕をする意味が、やってみて、体験してみて初めてわかった気がします。今、養蚕農家は日本では少なくなっており

ますが、日本の経済成長を牽引してきた絹産業、その原動力となるのが養蚕です。着物業界のみならず、シルクを使った糸、織物など、様々な分野で使われている大切な資源です。

IT産業が台頭し、情報化社会の中にある日本ですが、もっと心の中心にある大切な暖かい物を忘れてしまいそうで心配です。

養蚕にかかわりながら、少し立ち止まることが出来、自分の心の奥底を垣間見た気がします。

今回は大変たくさんの方にお力添えをいただき、素晴らしい体験をする事が出来ました。また、かけがえのない蚕の命から本当にたくさんの事を学びました。いくら感謝しても足りないくらいです。

結びになりましたが、(財)大日本蚕糸会、群馬県蚕糸園芸課、大胡町稚蚕飼育センター、与謝野町、碓氷製糸農業協同組合、丹後基金協会、京都府織物・機械金属振興センター、京都産業21北部支援センター及びその他お世話になりました方々にはこの場を借りまして感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

しばた ゆうじ

丹後織物青年団体協議会 会長

柴田織物 代表

シルク遺産を訪ねて①

埼玉県入間市の西洋館

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

これから、シルクに関連した産業遺産をご紹介していきたいと思います。今回と次回は埼玉県入間市のシルク遺産をご案内しましょう。

埼玉県の入間市は東京・池袋から電車で30分。今は狭山茶の産地として有名だが、往時は養蚕・製糸業が盛んだった。それを証するのが、旧石川組製糸西洋館だ。竣工は大正11(1922)年ないし12(1923)年。木造2階建ての本館と平屋建ての別館が、きれいに保存・公開されている。外観からは木造には見えないのは、外壁がチョコレート色のタイルで張ってあるからで、屋根は洋瓦で葺いている。

この建物は、石川組の創業者が外国からの貿易商を招くのに使った迎賓館。設計は東京帝国大学で建築を学んだ室岡惣七が、施工は川越の宮大工・関根平蔵が担当した。

当時の養蚕・製糸業の地域に、どうしてこのような立派な西洋建築が建てられたのか？それは、施主の石川組が最盛期には、各地に9工場をもち生糸出荷額では全国第6位の有力な企業だったことによるという。

館内は全体的として竣工当時の状態を良く保存している。部屋ごとに特色のある天井や床の寄木造り、照明器具、壁紙、とくに階段室の一木で作られた手すりなどは見事だ。ただ、戦後進駐軍が接収した時の改修がそのままである。これは復元すべきだとも感じるが、いや、敗戦後の改修は、それはそれである時代を示す貴重な証拠として残すべきだとの見方もあるだろう。一つ、違和感を持つのは、玄関の車寄せ、とくにその屋根の形だ。これは和風の感じがぬぐえない。宮大工の手になっただけにここは和風となったのであろうか。

なお、石川組製糸は、石川幾太郎が明治26(1893)年に創始した製糸会社。「当初はわずか20釜の座繰製糸でスタートしたが、翌明治27年にはいち早く蒸気力を利用した器械製糸に切り替え、日清・日露戦争の戦時景気にも乗って瞬く間に経営規模



旧石川組製糸西洋館
(写真提供・埼玉県入間市教育委員会)

を拡大した」(入間市教育委員会資料)という。だが、関東大震災や昭和恐慌、人造繊維のレーヨンの登場もあり、昭和12(1937)年に惜しくも経営破綻した。

この建物は、大正から昭和初期にかけたシルク産業の全盛期を示す貴重な産業遺産である。国の「登録有形文化財」に指定されているのは当然として、経産省の「近代化産業遺産」のリストからは漏れているのが惜しまれる。

90年を経過したこの西洋館の保存と公開を続けている入間市民と同市教育委員会

のご見識とご努力に敬意を表したい。なお、入間市に行かれたら、是非、入間市博物館の見学もお勧めだ。その製茶に関するコレクションと展示は素晴らしい。

■所在地：入間市河原町13-13

■管理者：入間市教育委員会

生涯学習文化財担当

(tel:04-2964-1111)

■公開：毎月土曜と月曜に各1回
詳しくは上記にお問合わせください。

ひらい とうこう

東京産業考古学会 副会長

嘉悦大学 元教授

日本化学繊維協会元調査部長

2011 年国際シルクフォーラムに出席して

(財) 中央果実基金理事長

(日本絹業協会顧問) 吉國 隆

9月22日から24日まで3日間中国杭州市で開かれた標記会合に高木会長の代理として出席させていただく機会を得た。蚕糸科学研究所の栗岡聡主任研究員にも同行して頂いた。また、会議には、信州大学の三浦幹彦教授（日本シルク学会会長）とも一緒に参加することができた。

フォーラムの開催経過

この会議は、2006年に第1回が開催され、最近は隔年開催で今回が第4回目である。

思い起こせば、2004年に中国絲綢協会の弋（イイ）会長が来日された際、このような国際交流の場を設けたいという熱心なお話があり、当時絹業協会会長であった私も賛同したという経緯があった。ちょうど国際絹業協会（I S A）が解散した直後のことで、生糸絹製品の生産交易や品質問題などに関する国際的な協議交流の場が失われることは残念と思われていた時期であり、わが国での開催は困難であることも付言しつつ同調したものであった。今回初め



会議風景 左端が筆者

てこのフォーラムに参加することができて、弋会長を含め何人かの旧知の方々にお会いでき感慨ひとしおであった。

今年の参加国は、中国、インド、日本、韓国、台湾、香港、マレーシアのアジア勢のほか、イタリア及びフランスのヨーロッパ勢に加えて、ウズベキスタンとエジプトが参加し、合計11カ国の参加であった。このうち、フランスとマレーシアは、デザイン関係者の出席であった。

今回イタリアから参加したテッタマンティ氏は、I S Aの解散時にヨーロッパ諸国がE U機関の一部として作った協議機関の

事務局長の立場を兼ねていたが、この組織の活動はあまり活発とはいえず、フランスとイタリアとの協議の場としての役割が中心とのことである。

生糸絹産業の将来展望への不安

今次会合で最も強く印象に残ったのは、ここ数年の生糸や絹製品市場の不安定な動きが関係産業の将来展望に不安の影を落とし、それを巡って多くの課題が語られたということであった。

そのいくつかの側面や論点は、次のように整理することができよう（論点ごとに示した発言者のフルネームと肩書きは次の通りである）。

銭有清：中国絲綢協会秘書長

李龍中：中国農業科学院蚕業研究所副所長

顧国建：浙江大学经济学院副院长

劉吉平：華南農業大学蚕桑系主任

1) 近年の市場の停滞と価格の乱変動

中国の生糸絹製品の需要は、内需・輸出ともに2008年、09年と減退又は停滞を続け、2010年、11年は回復傾向を示したものの、生糸繭価格が乱高下するなど、不安定な市場動向がここ数年続いている（銭）。

金額ベースでの産出額や利潤は、インフレ傾向ともいえる価格の上昇に支えられて2010年までの5年間おおむね右上がりに推移したが、直近では、価格が下がる一方で品質向上を求められるという調整局面に入っている（銭）。



会場で中国絲綢協会弔会長（右端）と歓談

需要停滞の要因として、欧米の金融危機や経済回復の遅れ、他繊維との競合、販売戦略の不足、高齢化など社会情勢の変化の影響などがあげられており（銭、顧）、これらへの対応が訴えられていた（後述4）。

一方、中国の繭生産量は、年ごとの増減が激しいが、最近の5年間をならして考えると5年前とほぼ同じ水準にとどまっており、それ以前のほぼ一貫した増産傾向とは趣きが違ってきている（李）。

生糸価格の変動は、投機資金の流入や綿花市場の乱高下の影響などによって増幅されたといわれていた（顧）が、商品市場の適正な運営を訴える声（イタリア）もあった。

2) 繭生糸供給の構造問題

中国のめざましい経済発展により、浙江、江蘇、山東省など沿海部の良質な生糸産地の生産が減って、代わりに広西、広東、雲南など比較的開発の遅れた地域での増産が進み、これら3省を合わせてほぼ全中国の生産の半分を占めるに到っている（李）。

このうち、広西、広東は高温多湿で多化性繭が多いが、蚕の病気や繰糸適性などによる生糸の品質問題に直面しているようである。いまでも中国の5 A以上の糸の8割は浙江、江蘇両省で作られているが、両省の繭生産のシェアはそれぞれ9%、13%に低下しており、特に10年前に中国第1位の生産地であった浙江の比重低下が著しい。(江蘇省は比較的未開発であった北部への産地移動である程度カバーされた)(李)。

このような状況から、あらためて、「養蚕の近代化」のための施設の整備、稚蚕の共同飼育、一斉防除、技術指導などの必要性が指摘されていた(銭)ほか、ホルマリン代替剤開発の必要性への言及もあった(劉)。

中国は「東桑西移」政策を進めてきたが、社会開発の遅れた地域でしかも熱帯・亜熱帯気候の地域に養蚕を導入することから、ここへ来て「東」の技術や絹文化の蓄積、研究教育や経営能力などの資源を「西」にも提供していく「東と西の連携」を唱える論調があった(銭)ことが興味深い。

このように、中国の経済発展により将来の良質生糸の供給構造の問題が顕在化し、関係者がそれへの対処法を模索している姿が浮かび上がっていた。

3) 養蚕の存立をかけた収益性向上努力

そのひとつとして、養蚕の収益性の改善や単位面積あたりの産出額の増加が養蚕の存立に欠かせないとの見地から、桑や蚕な

どの「養蚕資源」の「多目的に利用」が提唱されており(銭、李、劉)、そのための研究活動が広汎なテーマで進められていることが注目された。

すなわち、桑については、(葉、実、茎、樹皮、根などすべてを)各種の薬品、健康食品、飲料、動物の飼料、紙や板、茸栽培原料などに活用するほか、緑化や土壌保全植物としても活用する。蚕については、蛹や蛾、糞なども含めて、薬品、化粧品、健康食品、冬虫夏草などに利用するというものである(劉)。

薬効としては、血糖値・血圧・コレステロールの低下、抗がん・抗ウイルス・抗酸化作用、肝臓機能強化などが挙げられていた。

さらに、フィブロイン蛋白質やその化合物の人工皮膚・人工血管など医療用品への活用も論じられていた(同)。

さらに、桑畑に穀物、豆、落花生、芋などを間作し、収益性を高めることも提唱されていた(李、劉)。

これらの研究成果が商業ベースでどこまで実用化されているかはかなりバラツキがあるとの印象を受けたが、研究活動の連携集約化や資金の増強を呼びかけるなど、熱気のこもった報告がみられた。

なお、これらの技術開発にゲノムの解析利用が必要とする論があった(劉)が、現時点までにこの面でさほど大きな進展があったという印象ではなかった。

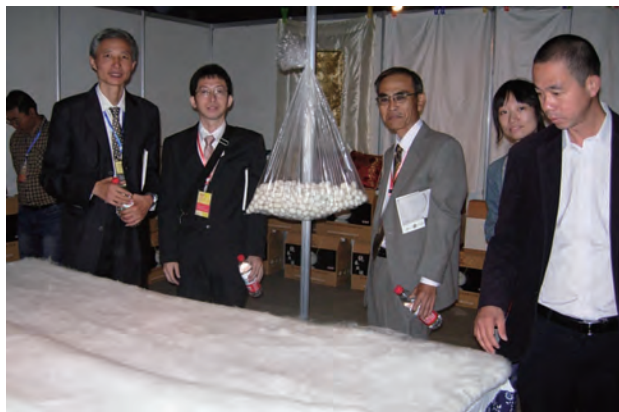
4) 需要拡大に注力—絹文化も強調

中国は、絹の需要拡大のための一方策として、2004 年から「高級絹マーク」の標章が現れており、現在 31 の企業がこのマークを使うことを認証されている。

これによって、絹製品の品質向上とブランド化を図るとともに、文化的な蓄積も活かしたデザイン力のレベルアップなどを通じて内外の消費の拡大を図ろうとする狙いのである。

また、繰糸、染色、織り、縫製など加工過程の技術改善とそのための試験研究を進めること、需要層のちがいに応じて多様なグレードの製品を揃えること、高齢化や晩婚化などの社会変化に即応してそれぞれのニーズや選好にきめ細かく応じた商品生産を目指すこと、絹のシワ問題や洗濯特性を改善するための技術開発を進めること、衣料だけでなく家庭用品（フトンなど真綿製品やクッションなど）にも着目すること、他の繊維との混紡、混織製品も拡大することなどが提唱されている（銭、顧）。

家庭用品といえ、見学した杭州市の絹博覧会の展示やファッションメーカーのシ



絹博での真綿ふとんの展示
左から費教授、栗岡主任研究員、三浦教授

ョウルームで、真綿を詰めた布団が幅を利かせていた。玉繭や袋真綿（日本の技術も移転されたとのこと）を一緒に飾り付けたりしてアピールしていた。おそらく、多化性の繭や玉繭など繰糸適性の低い繭の増加に応じた製品開発が進められたものと想像される。

販売力の強化のためのファッション重視姿勢（後述）や、国際協調による需要動向の把握の必要性も指摘されていた。

興味深いのは、中国の永い絹の歴史文化の力を利用し、これを消費者に訴えて消費拡大につなげる努力が必要との論点（銭、顧）であり、わが国と共通の問題意識がうかがえたことである。「南京雲錦」など織物の歴史遺産・無形文化遺産の力を利用した「世界錦織物の日」も提唱されているとのことであった。

日本の発表と質問

日本からの発表としては、私から、日本の絹・生糸の需給、連携グループ作りによる純国産絹製品づくりの推進、最近の養蚕絹に関する実用化技術（ホルマリンに代わる消毒液、プラチナボーイの開発、蚕の遺伝子操作による有用物質の生産）などについて報告した。

また、進行中の生糸電子検査基準（後記参照）について、その作成努力を前向きに評価し、日本も国内需要者のニーズに即しながら協力してゆく用意がある旨発言した。

参加者からの質問として「中国が将来日

本のような養蚕の衰退を招かないようにするため、何をなすべきか」という質問が出て面食らった次第である。「十分に答えることができる立場ではないが、市場原理に沿って消費者のニーズにこたえる努力を続けることが基本だと思う」と答えるのが精一杯であった。

三浦教授からは、日本の養蚕絹に関する教育活動及び研究調査の概要について分かりやすい俯瞰的なご報告があり、ナノテクノロジー、蚕の人工飼料に関する研究についての質問があった。

生糸の電子検査基準問題

現在、ISO（国際標準化機構）の枠組の下で、中国の提唱により、生糸の電子器械検査によるフシと繊維度分布の検査法の基準を定める作業が進んでいる。現段階の作業は、検査法や結果表示法を統一することだけを目的としており、検査結果と生糸の格付け規格との関連付けはしていない（したがって、格付けは従来どおりセリプレーン検査による）。

この問題を巡っては、日本の専門家も参加してISOの作業委員会が数次に亘って開かれており、すでに第1次の草案が出来上がって、それを次の検討段階に進めるための参加国による投票が先日行われた。

その結果、1カ国（インド）の反対があったが、圧倒的多数で次の段階に進むことが支持されたところである。

この問題について、今次フォーラムでどんな議論が出るか注目されたところである

が、中国の関係者から、淡々とした今までの検討経過の報告と期待の表明があったほか、特段内容的に踏み込んだ議論は行われなかった。

イタリアの代表からは、電子検査法の基準だけでなく、早く格付け基準に反映して、生糸の品質の向上と品質表示の信頼性改善を進めてほしいという発言があった。

また、中国で中国糸の撚糸を行い輸出しているヨーロッパ系の企業関係者も、場外での私の質問に対して同様の希望を述べるとともに、撚糸業者の立場からみると3mm以下の小さなフシの形状判定がこの検査法ではまだ不十分である（小さなツナギ節が原糸の切断を招き撚糸の効率を阻害することを念頭に置いた意見と思われる）、したがって光学的検査を充実するための器械装置の改良が必要であるとの見解を述べていた。

わが国でも、特に羽二重など無撚糸使用の織物の織りや染めなどにおいて、生糸のフシが致命的な問題を生じるおそれがあるので、フシの形状をあらかじめ知ることが重要であり、今回のISO投票において賛



西湖湖畔で浙江研究院の周女史及び伍冬平氏

成投票をするに際しても、将来の検査技術の進歩に応じて追加の提案をすることあるべしということを伝えてあるとのことである。

私の杭州滞在中に、中国側の基準作成作業の中心者である浙江絹科学研究院の周穎女史にお目にかかった際、私からも重ねてこの点に留意をお願いしたところである。

なお、イタリア代表及び前記のヨーロッパ系撚糸業者の話によれば、中国糸の品質はいっそう悪化している（イタリア代表はフシの面では若干の改善が見られるとしたが）とのことであった。

イタリア代表からは、生糸の品質問題に関して、主要輸入国も参加する「世界シルク協議機構」(International Silk Consulting Agency) を中国に設けるべしとの提案があり、苦情処理機関的なものを想定しているのかと思われるが、会議の場では突っ込んだ議論はなく、弋会長の取りまとめ発言の中では、イタリア提案は引き続き協議するとされた。

ファッション重視の傾向

中国では、絹の原材料輸出から最終製品の輸出への切換を進めて、付加価値を増すことに努めているが、このためにも、また内需を喚起して関係産業の安定成長を目指す立場からも、後進性を自認しているデザイン力、ファッション性の向上を重視する姿勢が強調されていた。これは、会議での発言ばかりでなく、見学した企業のものづくりや展示の面でも現れていた。

不足しているといわれるデザイナーを世界各国から招いて製品の質を高めていこうとする企業も多いようであるし、ファッションショーも盛んとのことである。日本人デザイナーも結構活躍しているようで、我々の見せてもらったショーでも、日本人デザイナーによる作品が入選していた。

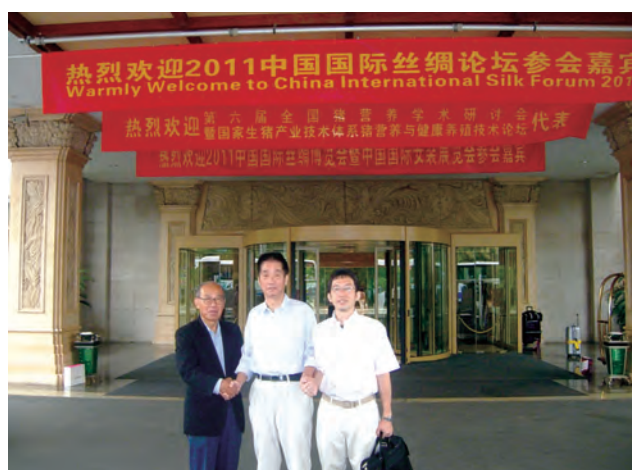
また、流行の予測や分析を進めることにも注意が払われている様子で、会議では、中国美術学院のデザイン学院副院長呉海燕女史から、最近の流行動向や予測について、色、デザイン、モチーフなど様々な側面からの分析結果の報告があった。その中に、社会の重大な出来事の影響を予測する部分があり、東北の大地震も登場していたのに驚いた。

今後のフォーラムについて

多くの参加者がこのフォーラムの意義について積極的な評価を表明し、フォーラムは今後も継続して開催されるものと予想される。

わが国にとっても、世界の動向を知るとともに、情報交換や人的交流を図ることは有効であろう。このフォーラムの参加者の関心分野を考慮すれば、できれば川下関係業界からの参加も得て、わが国の品目別の消費や加工・販売面での動きについても情報提供をすることができれば歓迎されると思われる。

養蚕業の「近代化」や病虫害防止、「養蚕資源の多目的利用」などの論点についても、日本の知見やアドバイスを提供でき



会場のホテルで杭州絲綢協会任副会長と

るものがあれば、世界の絹需給の安定に貢献できるといえよう。

フォーラムには、蚕糸業や絹産業に関わる各種の技術開発研究に携わっている専門家や学者も多数参加していることから、これらの専門家との人材交流を進めてゆく契機としても有効なように思われる。前記の論点紹介で名前を示した諸氏もその意味で注目に値しよう。

なお、このフォーラムの運営は、中国絲綢協会だけでなく、開催地である杭州市の政府や業界の設営に負う部分が大きいようで、杭州市の絹博覧会と同時開催という形でもあるので、博覧会の展示や催し（ファッションショーもそのひとつ）にも参画することができた。

会議場となったのは、杭州市郊外の新開発区にある近代的なホテルで、西湖からは車で30分以上かかる場所であるが、食事の質も高く、快適に過ごすことができた。

杭州市絹業協会の皆さんは、会議運営の裏方ばかりでなく、食事、工場見学、イベ

ントの案内や配車、送迎、通訳の手配などに献身的に尽力してくれた。

変貌する中国社会—成長の熱気

中国の発展振りについてはよく知られているが、私に強い印象を与えたことのひとつは、若い人達が澆刺としていることであった。杭州が開発レベルの高い地域であるということもよるのかも知れないが、杭州市の協会が派遣してくれた通訳兼世話係のボランティアの学生さん達（我々には日本語の話せる学生さんがついてくれたが、大部分は英語を話す若い娘さん）の言動を見ていると、いずれも明るく親切なほか、闊達・積極的で、向学心や将来への希望に燃えており、成長盛りの国の勢いを感じた。

対日感情も、日本のマスコミが過敏に報道することと一般市民の反応とはまったく別と思われる。日本語の習得意欲や留学希望も依然として多いそうである。

他方、成長のコストというべきか、化石燃料による発電や自動車の増加によると思われるスモッグ現象が深刻なようで、天気がいいはずなのにスッキリとした青空が望まれない日ばかりであった。「西湖十景」に謳われた「三潭印月」も、六和塔から望む銭塘江の眺めもややかすんで見えたのは残念であった。

そのせいか、環境問題への認識は相当拡がっているように見受けられた。

ホテルでは部屋に備えられた環境保護の「緑のカード」で客に説明しながら、タオル交換を制限（希望した場合だけ交換して



ファッションショー

くれる) していたが、見学したファッションメーカーなども太陽光発電の実施や、商品製造過程での水の循環利用などを強調する宣伝を行っていた。

また、中国全土の都市で1年に1度「無車日」を設けてマイカー乗入れ禁止を行っているそうで、運悪く我々が会議の前日に西湖の周辺の見学や周さんとの面談を行った日がこれに当たっていた。

このため、杭州市の中心部はタクシーに乗り換えて移動する必要があった。タクシーもサイドミラーに緑のリボンをつけて環境保護を強調しているようであったが、それにしては急加速での追越しを得意とする運転手もいた。

「高級絹マーク」も環境保全や生態保護が指定基準のひとつとなっているし、桑による環境保護効果を養蚕の発展と結びつける論議も環境重視姿勢と無縁ではあるま

い。このような環境問題への意識の広がりやをどう実践に結び付けて行けるかがこれからの中国社会の課題と思われた。

中国の食事は健康志向が強くなっているという印象を受けた。これも杭州という土地柄もあるのかも知れないが、かつてのように食べきれないほどの量の料理がテーブルに並ぶという風景とは違って、比較的サッパリとした料理が、丁度皆に行きわたる程度の適量で品数多く出てくるという感じであり、食べ過ぎ感なく堪能できる楽しいものであった。野菜をベースにした料理の種類も豊富であった。

女性の晩婚化も中国社会の変化を示すひとつの現象であろう。日本では「親のスネをかじる」独身女性貴族が多いと話したら、中国ではもっとすさまじく「老人をかじる人種（啃老族）」という言葉があるとのことであった。

結び

最後に、フォーラムへの私の参加を実現していただいた高木賢絹業協会会長、終始我々と行動を共にして力添えを頂いた蘇州大学紡織服装工程学院の費万春教授、そして手配面でのご助力とご指導を頂いた信州大学の白倫教授（前蘇州大学副学長）に対し、この誌上を借りて深甚の謝意を表したい。

よしくに たかし

(財) 中央果実基金理事長

(日本絹業協会顧問)

国内産地情報

絹織物産地の概況（９月）

中国生糸の暴落で戸惑い、集散地市場の荷動き一段と鈍化

<原糸>

機業の原糸手当は、中国生糸価格の暴落と乱高下で織物の動きが一段と鈍化していることもあって、慎重で必要最低限の当用買いで模様眺めとなっており、新規買い付けは進まなかった。在庫は、集散地市場の荷動きが極端に悪く、産地への商品発注も先細りの状況から減少傾向にある。

<白生地>

- ・縮緬＝丹後の９月の生産は、前年比 92% で減産となった。稼動日数は 21 日で、前年同月より 1 日多い。
- ・長浜の生産は、前年比 75% で、厳しい落ち込みとなった。稼動日数は 16 日で前年比 1 日減である。
- ・五泉は、駒紬三越が大幅な増産となったが、他の品種が減産となり、全体の生産反数は 26% の減産となった。
- ・福島は、引き続き受注減少に伴い、生産量、操業度ともに落ちている。
- ・石川は、超小口商いが続いており、合織は冬季用の保温効果の高い節電衣料の受注が急増している。
- ・福井は、小幅羽二重は輸入品との価格格差が縮小している。
- ・群馬・埼玉は、群馬は前年の休機による減を取り戻した。埼玉は 12% の減であった。

<先染織物>

- ・帯＝西陣は、従来の減少傾向のまま推移しているが丸帯、袋帯が比較的健闘している。
- ・博多は、袋帯が展示会用等で大幅増、紋八寸名古屋帯は前年並となった。
- ・十日町は、付け下げ、振袖が好調であったが、留袖、訪問着は伸び悩んだ。
- ・米沢は、呉服に動きがあったが、服地は内地物、輸出物ともに不振である。
- ・山梨は、ネクタイは一部に多少の動きはあるが生産高は少ない。服地はサンプル中心の生産で生地生産量は少ないものの 10 月中旬以降には決まると思われる。
- ・西陣のネクタイは、端境期で低調である。店頭消化が悪く本発注が遅れている。

（9 / 1 ～ 9 / 30 の概要）

＊（社）日本生糸問屋協会「月報」23.10.12 第 752 号による。

海外シルク情報

中国

最近の中国国内生糸価格は暴落状況

中国での国内生糸価格は、昨年の当初から一本調子で値上がりを続け、本年4月から5月にかけてトン当たり40万元（キロ当たり400元＝5,200円、201デニール3A格）を超える価格まで上昇してきたが、その後一転して6月より徐々にその価格を下げきており、最近の推移は6月、390元（5,070円）／キロ、7月、365元（4,745円）／キロ、8月上旬330元（4,290円）／キロ、8月下旬、305元、特に8月以降の価格はまさに暴落と言えるほど、値を下げてきており、キロ当たり300元（3,900円）の大台を割る直前までに至っている。

このため、本年春繭を史上最高価格（キロ当たり生繭での購入価格。40元台、前年比約30%増）で買い入れた製糸工場は、経営上困難な状況下にある。浙江省の有力製糸会社幹部が語る価格暴落の原因は、

1. 国内絹織物工場の大半が休業状況にあり、生糸手当が滞り低迷していること。
2. 海外からの輸出注文が、輸出単価が高いこともあって激減していること。
3. 輸出為替通貨のドルがこここのところ安いこと。

等と分析している。

中国には生糸価格安値対策として生糸国家備蓄制度があり、最近では2007年前半に発動し、この在庫生糸を昨年の後半に放出売り渡した実績がある。今回の生糸価格の暴落についても、中国最大の繭産地広西自治区での自治区シルク協会の緊急会議（7月12日開催）で、自治区、地方政府幹部は、最近の生糸価格の下落状況に関し地方政府として適時生糸の買い上げを実施する用意があることを発表している。

加えて、7月下旬には、監督官庁の国家絲弁公室の李副主任は、中国シルク協会主催製糸研修会の挨拶として、シルク産業の健全な発展のため、既に生糸の国家買上の準備があることをアナウンスしている。

しかし、前述のとおりその後の生糸価格はさらに下落しており、8月末現在、この買い上げ制度が発動される気配はない状況にある。先の有力製糸会社幹部によれば、価格の推移を注視し最も安い価格に至ったところで買い入れ発動があると見ている。ちなみに、前回の2007年前半の発動時の買上価格はキロ当たり200元（2,600円）であった。

注）元の円換算レートは、1元＝13円。

中国、国家備蓄制度による生糸買い上げを実施へ（ついに伝家の宝刀を抜く）

中国での国内生糸価格は、8月以降の価格はまさに暴落といえるほどに値を下げてきており、一時の高値キロ当り 400 元（5,200 円）から一転し 300 元（3,900 円）の大台を割る直前にまで至っている。

このため、9月9日付けをもって中国政府（中国繭絲綢弁公室）は、次に掲げる国家生糸買い上げの公告を全国に通知した。

○買入れの目的

最近の国内シルク市場情勢により、基本的に生糸価格を安定させシルク業界の発展を図るため、政府は公開入札方式による買い上げを行うことを決定した。

○今回の買入れの基本事項

1. 買い上げ者：中国繭絲綢弁公室
2. 買い上げ実施機関：中机国際招標公司
3. 買い上げ数量枠：1,008 トン（16,800 俵）
4. 買い上げ対象生糸：本年度生産白繭糸で、21 デニール 3 A 格以上のもの
5. 買入れ単位：1 ロット 30 荷口（300 表）最大 56 ロットまでとする。
6. 入札方法：入札参加者の全平均入札価格に直近のものを落札価格とする。
7. 入札参加者（製糸業者及びシルク加工業者）の資格要件を定める。

この後、政府は省関係機関の審査、推薦により、49 者の買入れ入札参加有資格者を公表し、9月27日までに入札を受付し、同月28日に首都北京にて今回の買い上げ入札を公開開札した。

この買い上げ入札結果は、39 業者が参加し、33 業者が落札。落札（買上）数量は 972 トン（16,200 俵）、平均買上価格は、キロ当り 328 元（約 4,200 円）と公表された。この後、買上契約が締結され、この落札数量が市場より隔離され、政府により買上されることになる。

なお、この間、日本向け生糸の輸出価格は現在キロ当り 55 ～ 56 ドルであり、一時より 4 ～ 5 ドル値下がりしている。

（注、元換算レートは 1 元＝ 13 円）

＊（社）日本生糸問屋協会「月報」23.9.11 第 751 号及び 23.10.12 第 752 号による。

ハンカチーフ製造から始まった 横浜スカーフ産業

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

横浜はスカーフの産地としてよく知られており、横浜を代表する特産品になっております。

このスカーフ産業は、横浜開港(1859年)後、間もない時期にハンカチーフ製造からはじまりましたが、昭和初期に至って、外国からの要望でスカーフを製造するようになり、横浜の主要産業へと発展していきました。

ハンカチーフは当時、「手巾」「鼻拭き」などといわれていましたが、横浜の業界の中では、現在でも手巾とよぶ人たちがいます。

それでは手巾誕生からスカーフ産業への移り変わりについてみてみましょう。

1 手巾製造のはじまり

誰が何時ごろ手巾の製造を始めたかといえますと、諸説があり定かではありません。

一つには上州(群馬県)の織物仲買人小野里喜左衛門が、元治年間(1864～1865)に、同郷の園田艶作の織った縮緬に山繭糸を配し縁取りしたものを手に入れ、横浜で絹物商を営んでいた加太八兵衛商店で、外人用ハンカチーフとして販売委託したところ、外人の嗜好にあい、よく売れたといえます。これがハンカチーフの製

造のはじまりだといえます。

次の説は、上州桐生の機業家江原貞蔵が1866(慶応2)年、同郷の織物仲買人小野里喜左衛門と協力して、琥珀織の薄物を織り出して、外人向けハンカチーフを製造して成功したといわれています。

桐生の機業家江原貞蔵が、1871(明治4)年にフランスから織物の見本を取寄せ、新縞綾織、亀綾斜子織の生地で、外人向けのハンカチーフを製造したのが始まりという説もあります。

この他にも諸説がありますが、1873(明治6)年4月17日発行の官許横浜毎日新聞の輸出欄には「手巾67枚」の記事がありますので、製造量は少ないながらも、このころから手巾の製造を行い、輸出を始めていたことがわかります。

2 横浜の地場産業「手巾」の発展

手巾を製造し、地場産業として発展させたのは、横浜で絹物商を営んでいた資金力のある僅かな商人たちでした。

その絹物商を営む人たちにも、開港当初は、攘夷論者による営業妨害があり、商売を続けることは大変困難でした。

横浜で絹物商を始めた加太八兵衛も、そ

の一人でした。加太八兵衛は、江戸 麴^{こうじ}町で呉服商をしていましたが、開港の際、外国人向けの絹物商を横浜で始めました。ところが横行する攘夷論者の浪人たちに脅迫され、やむなく一時店を閉じ、縁故者の椎野正兵衛に営業権を譲ってしまいました。その後、加太八兵衛は、明治初年に再度横浜に戻り、椎野正兵衛商店と肩を並べる大きな絹物商に成長し、手巾など絹物の輸出に力を入れました。

椎野正兵衛は横浜で外国人を相手に京都や桐生の織物を販売し大変繁昌しており、1873（明治6）年には、オーストリアで開催されたウィーン万国博覧会に出品者代表として渡航しました。この機会に随行した椎野賢三と共に、ヨーロッパの絹業を視察して帰国しました。

椎野正兵衛は、この視察によって得た見聞をもとに、絹の手巾や寝衣などの輸出をするようになり、加太八兵衛らと共に、横浜の手巾産業を発展させました。

横浜から手巾の輸出が始まった当初の製



写真 26 椎野正兵衛
(シルク博物館所蔵)

品は、白生地か無地染（模様がなく一色で生地全体を染めること。色無地ともいう）でしたが、加太八兵衛や椎野正兵衛らは、外国人の好みに合った製品を作るために、生地の製織から染色、縫製などに至る技術の向上に努め、初期の手巾輸出の礎を築き上げました。

3 手巾の刺繍と捺染技術の発達

明治10年代後半になると「絵ハンカチ」が製造され海外へ輸出されるようになりしました。この絵ハンカチは、椎野正兵衛の専売になっており、製法は秘密でしたので、見本すら入手することが難しかったといわれています。

椎野正兵衛の絵ハンカチは、海外の注文の3分の1程度しか製造できなかったといわれていますので、利潤は大きかったようです。

この絵ハンカチの製法は現在でも不明ですが、1887（明治20）年ごろから、国外で刺繍^{ししゅう}ハンカチが流行しはじめ、好評を博しておりました。

1887（明治20）年5月の東京日日新聞には、米国各地から日本の絹に刺繍したハンカチの注文について、また同年10月の同新聞にはフランスで、日本の刺繍ハンカチが非常に好評であること、1891（明治24）年の横浜貿易新聞にも米国で絵画刺繍のハンカチが好評であることなどを報道していますので、筆者の推定では、椎野正兵衛の輸出した絵ハンカチは、刺繍ハンカチであった可能性と、次に述べる紙型捺染^{かみがたなっせん}あるいは木版捺染^{もくはん}などの手法を先取りして製品化していたのではなかろうかと考えております。

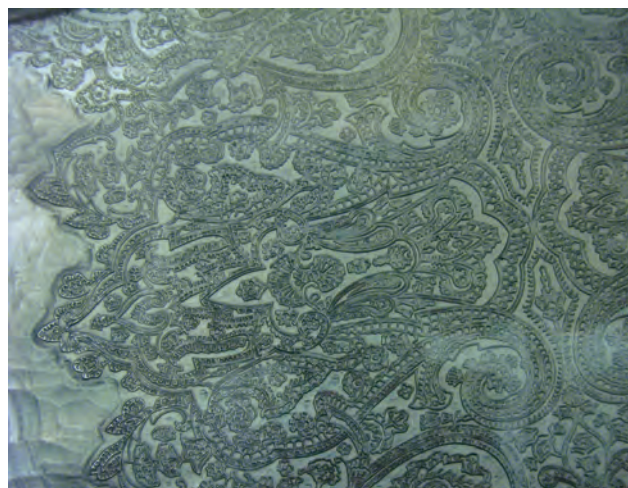
最近、「S.SHOBey Silk Store Yokohama



写真 27) 椎野正兵衛のデザイン事例
出典：椎野正兵衛デザイン帳から引用
(椎野秀聰氏所蔵)



(写真 28) 大正末期ごろの紙型捺染による手巾
(シルク博物館所蔵)



(写真 29) 版木に彫られた図柄
(昭和初期のものらしい)
(シルク博物館所蔵)

Japan」と押印された椎野正兵衛店のデザイン帳（発行年月・使用年代は不明、明治前期のものと推定されている）が見つかりました。これらのデザインをみると、刺繍による製品と染色による製品とが製造されていたのではないかと推定されます。しかし、絵ハンカチの製法は、発行年月や使用年代不明のデザイン帳からは断定できません。従って現在も絵ハンカチの製法は、ミステリーに包まれたままになっています。

明治 10 年代後半から 20 年代は、手巾の捺染技術が発達した時期で、これまで無地染めであった手巾は、捺染技術の向上によって、絵模様等の入った美しい製品になっていきました。

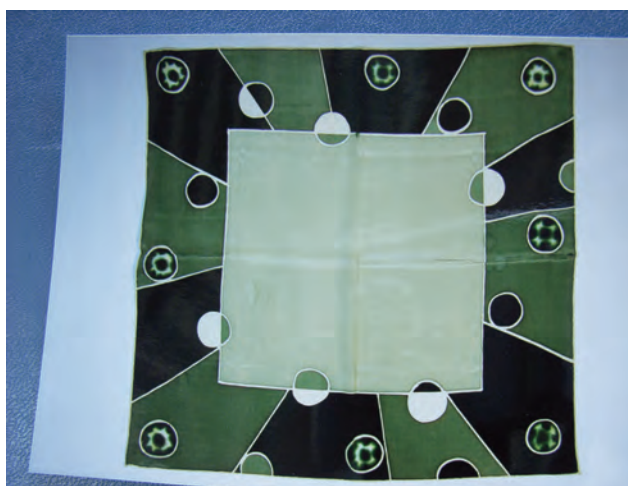
明治 20 年代は前述しましたように、刺繍された手巾と新たに木版や型紙を使った捺染法による手巾の輸出が盛んになり、明治期の手巾最盛期を迎えました。

型紙を使った捺染法は、伊勢の型紙技術を取り入れたもので、横浜では「型紙捺染」といわずに、古くから「紙型捺染」という呼び方をしてきました。

木版刷りは江戸時代に浮世絵、草双紙

などの普及によって発達し、この技術が手巾の捺染にも応用され「木版捺染」「木版更紗」と呼ばれ、大正から昭和初期まで全盛を極めました。横浜には 1945（昭和 20）年の終戦の年でも、木版彫師が 7～8 名、木版摺り師が 30～40 名いたといわれていますが、間もなくこの技術は消えてしまいました。

大正末期ごろからは、紗に漆をつけて型紙を貼り付け型紙の補強されたものが使用されるようになり、現在のスクリーン捺染（写真 31）の原型というべき製法が行われ



(写真 30) 昭和 4～5 年ごろの蠟防染スカーフ
(シルク博物館所蔵)

るようになりました。

紙型捺染や紗張捺染^{しやばりなっせん}には、餅粉^{もち}に染料を加えた糊^{のり}で染める「糊染^{はけぞめ}」や刷毛で染料を塗る「刷毛染^{はけぞめ}」が行われましたので、木版捺染と違って長い生地を染めることができ、しかも、蒸しによる色止め、水洗による余分な染料や糊の洗い落としができましたので、色落ちのしない美しい製品が作られるようになりました。

ところで、このように手巾産業を大きく発展させた縁の下の功労者といえば、手先の器用な女性たちの内職に負うところが大きかったということを忘れてはいけません。

4 手巾産業からスカーフ産業へ

明治から大正時代へと続いた手巾産業は、昭和時代に入ると大きな転換期を迎えました。

染色方法は、1928～1929（昭和 3～4）年ごろに「蠟防染^{ろうぼうせん}」や「スクリーン捺染」法が導入されようになり、各社に広まっていきました。

このころになると、スカーフの製造も始



(写真 31) スカーフのスクリーン捺染
(シルク博物館所蔵)

められるようになりました。

スカーフのはじまりは、輸出業者が偶然にもジョーゼット（経糸、緯糸共に 2 本ずつ強撚糸を並べて織った絹の布）の 36 インチ（約 91.4 cm）幅ぐらいの製品を作って、ロンドンに送ったことがきっかけとなり、1930（昭和 5）年ごろから輸出がはじまったといわれています。

1935（昭和 10）年ごろまでには、大量のスカーフが、海外に輸出されるようになり、手巾産業からスカーフ産業へと大きく転換しはじめました。

しかし、スカーフが大量生産されるようになったのは、太平洋戦争が終ってからのことで、世界に誇るスクリーン捺染技術によって、美しい横浜スカーフが世界の市場を席巻する勢いで伸びていきました。

横浜スカーフの最盛期の生産量は、世界の約 60%、国内の約 90%を占めたといわれています。

こいずみ かつお

シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催期間	場所・主催者
○日本絹の里 第 22 回企画展 —「ちりめん」 創作人形展— ・日々の情景	「ちりめん（縮緬）は、「しぼ」と呼ばれる布表面の凹凸が特徴の絹織物。今回は、ちりめんの古裂などを使い、昔の日常生活をモチーフにした創作人形を制作している作家・竹本京（高崎市在住）の作品を中心とした 5 回目の展示会。 観覧料：一般 400 円（320 円） 大高生 250 円（200 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金 ※中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者 1 名は無料	平成 23 年 10 月 22 日（土） ～12 月 5 日（月） AM9:30～ PM5:00 休館日： 毎週火曜日	会場・主催 「群馬県立日本絹の里」 〒370-3511 群馬県高崎市 金古町 888-1 Tel. 027-360-6300 Fax. 027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp
○シルク・サミット 2011 in 桐生 どうなるシルク・ どうするシルク —蚕糸絹文化の 現在・過去・未来—	「シルク・サミット」は各地域で養蚕・製糸・染織等の生産活動者、博物館・資料館・絹工房等の関係者が一堂に相集い、意見交換や情報・技術交流を目的に、毎年秋に開催。 参加費、無料。 懇親会費、5,000 円	平成 23 年 11 月 10 日（木） ～11 月 11 日（金）	会場・主催 「（財）桐生地域地場産業振興センター・第 2 ホール」 〒376-0024 群馬県桐生市 織姫町 2-5 Tel. 0277-46-1011 Fax. 0277-46-1014

	11月10日（木） ・ 基調講演 「蚕糸・絹業の現状と今後の展望」 （財）大日本蚕糸会会頭 高木 賢 ・ 特別講演 「遺伝子組換えカイコと その産業利用」 （独）農業生物資源研究所 特任上級研究員 田村 俊樹 ・ 活動事例報告 「カイコの飼育体験を通して」 「自然が生み出す夢紡ぐ糸」 ・ パネルディスカッション 「クリエイターが語る桐生産地の未来」		主催 ・（独）農業生物資源研究所 ・（財）大日本蚕糸会 ・ 桐生市 ・ 桐生市教育委員会 ・ 市立岡谷蚕糸博物館 ・ シルク・サミット 2011 in 桐生実行委員会
○蚕物語 —奄美の養蚕復活を目指して—	「奄美の養蚕」が消滅しておよそ50年、島桑で育てた蚕の繭を使い、純奄美産絹という付加価値のある商品を作り、きものを含めたあらゆる分野で絹の活用を図る。今また養蚕農家の復活と新しいシルク産業を復興し力強く再出発を目指す。 ・ 講演 「地域が支える蚕糸絹文化」 （財）大日本蚕糸会会頭 高木 賢 ・ パネルディスカッション 「これからの奄美の養蚕・絹製品」 参加費、無料。	平成23年 11月26日（土） 10：00～ 17：00	会場・主催 奄美市立奄美博物館 〒894-0036 鹿児島県奄美市 名瀬長浜町517 Tel. 0997-54-1210 Fax. 0997-53-6206 主催 奄美島絹推進協議会 後援 （財）大日本蚕糸会 奄美市教育委員会 南海日日新聞社 奄美新聞社

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 23 年 9 月 8 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（訪問着、付下、色無地、振袖、喪服、黒留袖）、裏絹（胴裏）
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、帯地（染帯）
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、帯地（後染）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、先染反物（大島紬、結城紬、染織作家作品、御召）、八掛、和装小物（帯締、羽織紐）、帯地
12	河瀬満織物 株式会社	帯地（先染）
13	有限会社 織匠小平	帯地（先染）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、帯地（後染）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	白生地（世紀 21）、後染反物（作家もの、黒紋付）、裏絹（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）、五ツ星（ぐんま 200、よろこび、世紀 21））、八掛、比翼地、長襦袢地、和装小物（襦袢、寝衣（うぶ着、おくるみ）、帯地（うるし糸 5%以上）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、帯地（袋帯（草木染、唐織、先染）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、洋装品（マフラー）
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染反物、後染反物
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（変一越（江戸小紋、友禪、色無地、紋意匠（江戸小紋、色無地、友禪）、帯地（後染）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地）、長襦袢
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地）、裏絹（胴裏）、帯地（後染）
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）帯地（後染）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 榎屋高尾	帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯地
47	株式会社 龍工房	和装小物（組紐）
48	からん工房	先染反物（紋紬、緋）、帯地
49	たわた工房	先染反物、帯地

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
50	山音 株式会社	後染反物（色無地（変三越、駒紹））
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯地
53	桜井 株式会社	帯地（先染）
54	有栖川織物 有限会社	帯地（先染）
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯地（先染）
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯地（先染）
59	株式会社 やまと	帯地（先染）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋（紋意匠））、帯地（九寸名古屋帯）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚げ、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	裏絹（胴裏）
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯メ、帯揚げ）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	裏絹（胴裏（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸））、後染反物（本藍染、江戸更紗、京友禅）、白生地、帯地（後染）
71	株式会社 高橋屋	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
72	おお又 株式会社	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
73	株式会社 天野屋呉服店	裏絹（胴裏（ぐんま 200（灰汁浸け加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
75	株式会社 とみひろ	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
76	株式会社 細安	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
77	京和きもの 株式会社	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
78	株式会社 まるため	裏絹（胴裏（トルマリン加工、パーリー加工））
79	株式会社 小川屋	裏絹（胴裏（ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工））
80	株式会社 エムラ	裏絹（胴裏（酵素精練））
81	株式会社 荒井呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
82	株式会社 牛島屋	裏絹（胴裏（酵素精練））
83	株式会社 谷呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
84	株式会社 登美屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
85	株式会社 川平屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏絹（胴裏、比翼（振袖用））、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞 株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具・寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社 北尾織物匠	帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物 (色無地)
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物 (色無地)
105	株式会社 山正山崎	後染反物 (色無地)
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物 (色無地)
107	株式会社 染織近藤	後染反物 (色無地)
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物 (色無地)
109	株式会社 和らいふ	後染反物 (色無地)
110	有限会社 きものいなもと	後染反物 (色無地)
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	帯地 (袋帯 (金銀糸 5% 以上))
113	奥順 株式会社	先染反物 (結城紬)、帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリット)
115	有限会社 金屋	後染反物 (色無地)
116	株式会社 鶴屋百貨店	裏絹 (胴裏 (酵素精練))
117	黄八丈めゆ工房	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	後染反物 (色無地)
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物 (色無地)
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物 (色無地)
123	株式会社 しょう美	後染反物 (色無地)
124	合資会社 治田呉服店	後染反物 (色無地)
125	株式会社 丸十	後染反物 (小紋)
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	裏絹 (胴裏 (酵素精練))
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地 (紋意匠)
128	大門屋	白生地 (牛首紬)、帯地 (後染 (牛首紬))
129	株式会社 加藤萬	和装小物 (帯揚、半衿)
130	株式会社 しゃらく	後染反物 (小紋)
131	合資会社 山中商店	後染反物 (小紋)
132	きもの処 あだち	後染反物 (小紋)
133	西川産業 株式会社	寝装寝具 (掛布団)
134	繭工房 華美	寝衣 (長肌着、短肌着)
135	株式会社 青山みとも	裏絹 (胴裏 (酵素精練))
136	株式会社 和想	後染反物 (小紋)
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	和装小物 (褌)、洋装品 (ネクタイ)
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物 (小紋)
140	株式会社 染織館	後染反物 (小紋)
141	株式会社 京ろまん	後染反物 (小紋)
142	五嶋 株式会社	和装小物 (帯締)
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	裏絹 (胴裏 (トルマリン加工))、後染反物 (小紋)
145	有限会社 明石屋	後染反物 (色無地)、帯地 (後染)
146	宮井 株式会社	和装小物 (風呂敷)
147	株式会社 ナカノ	後染反物 (小紋)
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物 (色無地)
149	株式会社 甲斐絹座	服飾品 (スカーフ)
150	有限会社さいとう呉服店	後染反物 (色無地、付下)
151	株式会社西松屋	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	株式会社西尾呉服店	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館「紫」(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上の大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパソルクセンタ-)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンタ-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	47
(2) 養蚕業の概要	48
(3) 養蚕農家数の推移	49
(4) 収繭量の推移	50
(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）	51
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移（2008～2010年）	52
(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産数量	53
(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	54
(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	55
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	56
(11) 国産生糸価格実態	58
(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	59
(13) 品目別絹二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	60
(14) 製糸工場の原料繭需給	61
(15) 製糸工場の操業状況	62
(16) 生糸在庫数量の内訳	63
(17) 蚕糸関係品目別輸入数量	64
(18) 生糸の原産国別輸入数量	65
(19) 絹糸の原産国別輸入数量	66
(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	67
(21) 絹織物生産数量	68
(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	69
(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	70

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	71
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	72
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	73
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	74
(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況	75
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	76
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	77
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	78
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2009年）	79
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	80
(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	81

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1992 4年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	753	265	352	0.9	7	49	34.9	11,659
前年対比 (%) 2010/09	82.3	81.0	98.6	75.0	100.0	81.7	103.9	101.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item 年 次 Year	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間） Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12		2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2008～2010年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

Year Item	2008年		2009年		2010年	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号	4,023	39.4	4,803	53.7	3,420	35.7
錦 秋 × 鐘 和	2,700	26.4	2,400	26.8	2,400	25.1
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号	2,410	23.6	1,565	17.5	2,072	21.6
ぐ ん ま 200	1,832	17.9	1,622	18.1	1,627	17.0
春 嶺 × 鐘 月	900	8.8	900	10.1	1,001	10.5
かいりょう × あ け ぼ の	355	3.5	442	4.9	487	5.1
新 小 石 丸	313	3.1	317	3.5	355	3.7
芙 蓉 × つ く ば ね	300	2.9	300	3.4	300	3.1
上 州 × 絹 星	191	1.9	204	2.3	51	0.5
世 紀 二 一	176	1.7	218	2.4	191	2.0
緑 繭 1 号	157	1.5	129	1.4	56	0.6
プ ラ チ ナ ボ ー イ	147	1.4	71	0.8	73	0.8
朝 日 × 東 海	100	1.0	100	1.1		
朝 日 × つ く ば ね	100	1.0	100	1.1	100	1.0
ぐ ん ま 黄 金	92	0.9	117	1.3	152	1.6
改 良 小 石 丸	79	0.8	87	1.0	87	0.9
白 繭 細 1 号	71	0.7	60	0.7	115	1.2
小 石 丸	55	0.5	39	0.4	27	0.3
蚕 技 研 10 号	45	0.4				
蚕 技 研 11 号	39	0.4	54	0.6	26	0.3
蚕 技 研 11 号	28	0.3	61	0.7	53	0.6
分離白1号 × 支 106 号	18	0.2	9	0.1	8	0.1
白 繭 細 2 号	16	0.2	20	0.2		
新 青 白 号	15	0.1	9	0.1	14	0.1
極 細 1 号	13	0.1	21	0.2	30	0.3
玉 小 石 山	12	0.1	33	0.4	16	0.2
鷹 山	9	0.1	29	0.3	25	0.3
支 21 号 × 四 川 3 眠	9	0.1	6	0.1	4	0.0
又 昔 × 中 515 号	8	0.1	6	0.1	5	0.1
青 熟 × 支 21 号	6	0.1	6	0.1	6	0.1
諸 桂 × 紹 興 白	6	0.1	4	0.0	4	0.0
黄 白	5	0.0	5	0.1	5	0.1
天 竜 青 白 × 支 108 号	4	0.0				
青 熟 × 中 515 号	3	0.0	2	0.0	3	0.0
鬼 縮 × 中 515 号	3	0.0	4	0.0	1	0.0
青 白 × 中 515 号	3	0.0				
山 東 三 眠 × 中 515 号	2	0.0				
松 岡 姫 り					200	2.1
い ろ ど					39	0.4
鐘 光 × 黄 玉					35	0.4
太 平 × 長 安					7	0.1
支 108 号 × 青 熟			2	0.0	5	0.1
合 計 Total	10,222	100.0	8,940	100.0	9,575	100.0

資 料：(財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures in 2010.

(全農集計に(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%) 平成23年1月14日現在

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	192.1	0.0	0.0%	153.1	137.4	89.7%	151.1	144.7	95.8%	496.3	282.1	56.8%
岩手県	2,526.0	2,017.6	79.9%	3,305.0	2,783.7	84.2%	3,694.6	3,049.7	82.5%	9,525.6	7,851.0	82.4%
宮城県	3,299.9	2,755.5	83.5%	2,692.3	2,335.9	86.8%	3,757.0	3,046.5	81.1%	9,749.2	8,137.9	83.5%
秋田県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
山形県	2,296.3	1,649.3	71.8%	1,128.3	761.7	67.5%	1,807.6	1,254.4	69.4%	5,232.2	3,665.4	70.1%
福島県	15,188.1	12,488.4	82.2%	14,670.8	11,946.4	81.4%	17,676.8	16,645.2	94.2%	47,535.7	41,080.0	86.4%
茨城県	4,814.0	3,672.0	76.3%	3,541.5	2,653.6	74.9%	4,242.9	3,181.4	75.0%	12,598.4	9,507.0	75.5%
栃木県	12,984.9	12,003.5	92.4%	6,901.5	4,465.3	64.7%	15,963.0	14,350.8	89.9%	35,849.4	30,819.6	86.0%
群馬県	55,127.7	49,138.1	89.1%	34,626.8	23,357.1	67.5%	49,254.0	38,871.7	78.9%	139,008.5	111,366.9	80.1%
埼玉県	9,778.9	9,018.9	92.2%	7,000.2	4,968.6	71.0%	8,475.9	6,903.5	81.4%	25,255.0	20,891.0	82.7%
千葉県	1,347.4	1,263.6	93.8%	976.8	671.7	68.8%	1,390.9	1,310.9	94.2%	3,715.1	3,246.2	87.4%
東京都	539.8	543.1	100.6%	0.0	0.0	—	440.0	342.3	77.8%	979.8	885.4	90.4%
神奈川県	863.9	884.8	102.4%	593.0	584.8	98.6%	735.4	637.9	86.7%	2,192.3	2,107.5	96.1%
山梨県	4,522.1	3,851.7	85.2%	1,824.1	1,170.0	64.1%	2,807.9	2,508.8	89.3%	9,154.1	7,530.5	82.3%
長野県	2,531.4	3,016.2	119.2%	3,116.3	2,212.9	71.0%	2,932.4	2,533.0	86.4%	8,580.1	7,762.1	90.5%
新潟県	0.0	0.0	—	102.3	46.6	—	44.7	51.9	116.1%	147.0	98.5	67.0%
岐阜県	1,978.6	1,351.3	68.3%	391.2	232.8	59.5%	1,170.6	687.4	58.7%	3,540.4	2,271.5	64.2%
静岡県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
愛知県	113.7	120.9	106.3%	0.0	0.0	—	34.9	0.0	—	148.6	120.9	81.4%
兵庫県	92.0	83.5	90.8%	83.6	80.0	95.7%	83.0	66.0	79.5%	258.6	229.5	88.7%
京都府	121.0	102.4	84.6%	74.1	97.5	131.6%	64.6	40.6	62.8%	259.7	240.5	92.6%
徳島県	1,674.6	0.0	0.0%	919.6	0.0	0.0%	1,148.6	0.0	0.0%	3,742.8	0.0	0.0%
愛媛県	2,340.2	2,172.3	92.8%	2,741.0	1,183.1	43.2%	1,937.2	1,671.9	86.3%	7,018.4	5,027.3	71.6%
高知県	344.5	280.4	81.4%	0.0	0.0	—	144.4	128.1	88.7%	488.9	408.5	83.6%
熊本県	817.3	543.4	66.5%	128.3	0.0	0.0%	237.5	271.6	114.4%	1,183.1	815.0	68.9%
宮崎県	165.6	136.6	—	0.0	0.0	—	131.8	62.7	—	297.4	199.3	67.0%
全国計	123,660.0	107,093.5	86.6%	84,969.8	59,689.1	70.2%	118,326.8	97,761.0	82.6%	326,956.6	264,543.6	80.9%

資料: 全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The dai nippon Silk Foundation

(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2010.

平成22年12月現在、全農調査（単位：戸、％）

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	－	0	0	－	0	0	－	0	0	－
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	－	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	－	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	－	1	0	－	1	0	－
愛知県	2	1	50.0	1	0	－	0	0	－	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	－	1	1	100.0
島根県	1	0	－	0	0	－	1	0	－	1	0	0.0
徳島県	16	0	－	12	0	0.0	13	0	－	16	0	－
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	－	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	－	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料：全国農業協同組合連合会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations

(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010 - 3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480
12	74	1,223	—	1,535	3,329	1,485	23	836	506
2011 - 1	53	1,448	—	1,521	3,309	1,790	18	976	427
2	69	593	—	823	3,148	982	55	486	559
3	65	1,381	—	1,031	3,563	1,858	15	769	597
4	70	372	—	851	3,154	1,674	15	741	562
5	66	1,280	—	1,501	2,999	1,797	17	910	440
6	63	760	—	890	2,932	1,731	30	762	667
7	57	489	—	680	2,872	1,489	29	780	457

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
生糸年度						
Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2010 - 4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34
12	74	0	7	24	8	35
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(11) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g
(Unit：Yen/ k g)

Year & Month	Size	21d	27d	31d	平均 Average
2005		3, 870	3, 173	3, 107	3, 383
2006		4, 617	4, 267	4, 080	4, 321
2007		3, 961	3, 625	3, 573	3, 720
2008		4, 266	3, 754	3, 489	3, 836
2009		4, 171	3, 598	3, 136	3, 635
2010		4, 152	3, 891	3, 564	3, 864
2010 —	3	4, 000	3, 758	3, 327	3, 695
	4	4, 026	3, 750	3, 100	3, 625
	5	4, 144	3, 876	3, 314	3, 778
	6	4, 192	3, 867	3, 729	3, 929
	7	4, 000	3, 883	3, 600	3, 828
	8	4, 256	3, 893	3, 814	3, 988
	9	4, 209	3, 965	3, 625	3, 933
	10	4, 231	4, 106	3, 833	4, 057
	11	4, 338	4, 149	3, 942	4, 143
	12	4, 329	4, 336	4, 002	4, 222
2011 —	1	4, 267	4, 267	4, 127	4, 220
	2	4, 763	4, 737	5, 400	4, 967
	3	4, 800	4, 619	4, 556	4, 658
	4	4, 942	4, 593	4, 865	4, 800
	5	5, 188	4, 699	4, 853	4, 913
	6	5, 200	5, 035	4, 750	4, 995
	7	5, 600	5, 109	5, 327	5, 345
	8	5, 602	5, 106	5, 586	5, 431
	9	5, 778	5, 237	6, 078	5, 698

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)

Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
6月中	6月	元	348.84	348.84	348.90	348.90
		円	4,535	4,535	4,536	4,536
	7月	元	349.26	349.26	349.56	349.38
		円	4,540	4,540	4,544	4,542
	8月	元	349.50	349.50	349.80	349.80
		円	4,544	4,544	4,547	4,547
	9月	元	350.16	350.16	350.76	350.76
		円	4,552	4,552	4,560	4,560
	10月	元	349.86	349.86	350.28	350.28
		円	4,548	4,548	4,554	4,554
	11月	元	346.98	346.98	347.40	347.40
		円	4,511	4,511	4,516	4,516
	12月	元	347.70	347.70	347.70	347.70
		円	4,520	4,520	4,520	4,520
	1月	元	346.74	346.74	347.10	347.10
		円	4,508	4,508	4,512	4,512
	3月	元	346.56	346.56	346.98	346.98
		円	4,505	4,505	4,511	4,511
	5月	元	346.32	346.32	346.56	346.56
		円	4,502	4,502	4,505	4,505

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
7月中	7月	元	350.80	350.80	351.30	351.30
		円	4,560	4,560	4,567	4,567
	8月	元	350.94	350.94	351.06	351.06
		円	4,562	4,562	4,564	4,564
	9月	元	351.78	351.72	351.84	351.78
		円	4,573	4,572	4,574	4,573
	10月	元	351.06	351.00	351.06	351.00
		円	4,564	4,563	4,564	4,563
	11月	元	348.30	348.24	348.36	348.30
		円	4,528	4,527	4,529	4,528
	12月	元	348.06	348.06	348.06	348.06
		円	4,525	4,525	4,525	4,525
	1月	元	347.76	347.76	347.76	347.76
		円	4,521	4,521	4,521	4,521
	3月	元	347.64	347.58	347.70	347.64
		円	4,519	4,519	4,520	4,519
	5月	元	347.16	347.16	347.16	347.16
		円	4,513	4,513	4,513	4,513
	7月	元	347.70	347.70	347.70	347.70
		円	4,520	4,520	4,520	4,520

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of
2010)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09(%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(13) 品目別絹二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes		26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside			14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合 計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(14) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項 目 Item 年 月 Year & Month		総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2005		866	830	589
2006		600	646	541
2007		548	581	505
2008		393	518	379
2009		308	385	313
2010		241	300	263
生糸年度 Silk Year				
2005		839	673	390
2006		562	599	349
2007		502	583	266
2008		406	452	224
2009		324	337	209
2010		260	281	188
Year	Month			
2010 —	1	16	24	312
	2	△ 1	26	285
	3	△ 1	28	257
	4	1	23	235
	5	0	26	209
	6	54	30	233
	7	14	23	224
	8	70	19	275
	9	0	22	253
	10	80	24	309
	11	8	24	293
	12	1	31	263
2011 —	1	27	17	273
	2	5	23	255
	3	0	22	233
	4	1	24	210
	5	0	22	188
	6	46	21	213
	7	36	20	229

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(15) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		7	112	90	80	266	90
2009		7	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2009 —	7	7	118	72	61	23	83
	8	7	118	75	64	20	82
	9	7	118	77	65	22	82
	10	7	118	77	65	24	82
	11	7	118	74	63	21	81
	12	7	118	71	60	21	82
2010 —	1	7	118	79	67	20	81
	2	7	118	77	65	21	80
	3	7	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	45	22	56

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(16) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場 売買業者	生糸市場外 売買業者	生糸輸出 入業者	受 入 数 量	引 渡 数 量	在庫数量
暦 年 Calendar Year		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
生糸年度 Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2009 — 12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			
4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
6	2,932	2,932	213	0	2,110	609			
7	2,872	2,872	229	0	2,095	548			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(17) 蚕糸関係品目別輸入数量 (平成18年～23年7月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2006～July. 2011)

	単位 Unit	平成23年(2011)		平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	22年/21年 2010/09 (%)
		(7月) July	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	489	6,323	12,209	12,085	15,242	12,858	21,148	101.0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,489	11,321	16,306	16,647	22,636	19,439	31,524	98.0
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	82	149	317	333	430	55.0
繭 Cocoon	kg	—	2,000	13,158	9,800	4,000	13,750	18,565	134.3
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	29,071	28,660	34,176	—
ペニール Peigne	kg	—	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	2,409	5,043	9,395	33,450	23,770	17,184	1,020	28.1
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	202,220	242,082	234,894	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	533	43,297	134,852	103,122	193,125	238,507	255,951	130.8
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	2,942	48,340	144,247	171,903	450,956	532,769	545,801	83.9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	30,007	235,590	451,219	335,710	526,662	608,270	756,065	134.4
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	5,301	62,429	104,374	97,554	143,585	117,265	208,913	107.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	779,945	5,424,479	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	100.4

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(18) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦 年 Calendar Year							
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	—	117 (—)	—
2009		12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (—)	50 (—)	—
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	77	—
生糸年度 Silk Year							
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	—
2009		12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	—
2010		12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	—
2009	— 8	921 (10)	819 (10)	96	—	7	—
	9	1,174	890	284	—	—	—
	10	1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	—	7	—
	11	1,060 (16)	500 (16)	553	—	7	—
	12	1,771	807	954	—	10	—
2010	— 1	1,061	857	205	—	—	—
	2	722	490	229	—	3	—
	3	1,182 (5)	639	512 (5)	—	31	—
	4	612	449	163	—	—	—
	5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	—	—	—
	6	919 (4)	681	237 (4)	—	1	—
	7	645 (5)	396 (5)	246	—	2	—
	8	985 (15)	790 (15)	176	—	19	—
	9	1,174	892	282	—	—	—
	10	1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	—	—	—
	11	1,082	843	234	1	5	—
	12	1,223	651	572	—	—	—
2011	— 1	1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	—	6	—
	2	593	521	72	—	—	—
	3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	—	6	—
	4	372	316	56	—	—	—
	5	1,280 (11)	1,082 (11)	198	—	—	—
	6	760 (7)	416	344 (7)	—	—	—
	7	489	389	100	—	—	—

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(19) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
2010		16,306	—	9,675	4,694	16	—	1,716	205
生糸年度 Silk Year									
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2009	— 6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
	8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
	9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
	10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
	11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
	12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010	— 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
	2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
	3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
	4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
	5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
	6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
	7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
	8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
	9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
	10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
	11	1,453	—	790	526	—	—	81	56
	12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011	— 1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
	2	982	—	559	312	—	—	110	—
	3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
	4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	1
	5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
	6	1,731	—	906	628	—	—	197	—
	7	1,489	—	910	432	0	—	155	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, Kg/円

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース）				輸入絹糸（通関ベース）					
	Raw Silk Imprt				Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
年 月 Year & Month	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,513	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,169	2,740	3,855	3,059	9,655	2,840	1,742	3,611	5,096	3,034
2010	8,411	3,667	3,705	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,694	3,411
2010 - 5	1,082	3,540	450	3,693	692	3,717	157	4,170	342	3,424
6	681	3,639	237	3,877	889	3,679	135	4,208	296	3,408
7	396	3,572	246	3,811	1,026	3,729	144	4,221	352	3,468
8	790	3,599	176	3,632	784	3,747	137	4,048	382	3,376
9	892	3,696	282	3,866	811	3,760	121	4,405	302	3,517
10	670	3,834	400	3,620	754	3,928	132	4,317	366	3,507
11	843	3,983	234	3,650	790	3,984	81	4,161	526	3,478
12	651	4,225	572	3,906	877	4,277	141	4,503	465	3,918
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(21) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000m²)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
暦 年 Calendar Year									
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010	11,659	3,790	1,471	1,224	1,095	6,201	4,034	2,167	1,668
2010 — 6	1,103	358	139	116	104	587	382	205	158
7	1,014	330	128	106	95	539	351	188	145
8	901	293	114	95	85	479	312	167	129
9	962	313	121	101	90	511	333	178	138
10	995	323	125	104	93	530	344	186	142
11	1,004	326	127	105	94	534	347	187	144
12	966	314	122	101	91	514	334	180	138
2011 — 1	814	311	196	15	99	347	142	205	156
2	873	333	210	16	106	372	152	219	168
3	902	345	217	16	110	384	157	226	173
4	989	378	238	18	121	421	172	248	190
5	840	321	202	15	102	358	146	211	161
6	911	348	220	17	111	388	159	229	175
7	834	318	201	15	102	355	145	209	160

資 料 : (社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	72,668	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010	11,659	101.6	515,721	102.5	80,701	109.5	859,244	115.1
2008 — 7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
2010 — 1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,923	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	5,799	91.1	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,688	85.6	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,276	83.6	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	5,933	89.3	62,260	88.4
6	911	82.6	41,785	94.6	5,797	79.2		
7			43,509	98.5	5,211	74.2		

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸関係協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts &sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 1.0	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 10.8	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	▲ 0.2	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 6.9	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.9	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 20.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 3.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183		2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,045	▲ 2.0	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	2,104
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
シリア	Syria	11.5	5.5	3
主要国の計	Total	730,922	809,728	937,009

区 分		2007年	2008年	2009年
		トン	トン	トン
日本	Japan	433	382	327
中国	China	779,261	683,387	575,299
インド	India	150,000	133,316	131,661
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,617	6,266	4,835
タイ	Thailand	1,785	7,700	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	25,760	25,896
イラン	Iran	1,665	1,185	1,185
トルコ	Turkey	130	126	140
ブルガリア	Bulgaria	55	48	51
ギリシャ	Greece	104	0	100
フィリピン	Philippines	9	6	4
シリア	Syria	2.5	3	4
主要国の計	Total	983,062	879,179	765,157

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600	324	5,400
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
シリア	Syria	1.5	0	0.7	0	0.5	0
主要国の計	Total	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800	115,926	1,932,300

区 分		2007年		2008年		2009年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	105	1,800	95	1,600	69	1,200
中国	China	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900
インド	India	18,320	305,300	18,370	306,200	19,600	326,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,220	20,300	1,177	19,600	811	13,500
タイ	Thailand	760	12,700	1,100	18,300	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,417	23,600	2,447	40,800
イラン	Iran	253	4,200	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	20	300	15	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	7.5	100	6.3	100
ギリシャ	Greece	0	0	0	0	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0	0	0.4	0	0.6	0
主要国の計	Total	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900	118,509	1,975,200

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	5,316,040	80.92	210,292	124.18
2 ベトナム	Vietnam	687,800	183.10	27,625	256.92
3 韓国	South Korea	524,545	97.95	21,201	138.58
4 ルーマニア	Romania	508,559	198.80	20,229	281.97
5 日本	Japan	483,704	107.01	20,302	155.15
6 イタリア	Italy	347,761	135.80	14,853	195.92
7 バングラデッシュ	Bangladesh	166,676	109.79	6,230	164.02
8 パキスタン	Pakistan	85,423	48.10	3,128	68.19
9 ミャンマー	Myanmar	78,785	119.99	3,028	189.93
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	66,758	229.30	2,502	279.12
11 その他	Others	242,599	59.43	9,458	100.53
合計	Total	8,508,650	92.21	338,848	139.15

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2011年1月～8月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	2,625,158	76.77	142,009	114.27
2 ルーマニア	Romania	405,143	144.15	21,333	205.23
3 ベトナム	Vietnam	338,582	86.34	17,858	128.10
4 韓国	South Korea	323,050	108.80	17,626	162.34
5 日本	Japan	291,888	100.53	16,649	149.48
6 イタリア	Italy	221,287	120.91	12,416	176.04
7 バングラデッシュ	Bangladesh	52,923	41.20	2,781	61.37
8 ミャンマー	Myanmar	50,936	93.11	2,781	148.36
9 ブラジル	Brazil	27,953	0.00	1,556	0.00
10 ドイツ	Germany	25,460	149.75	1,429	229.29
11 その他	Others	147,909	55.01	8,013	84.59
合計	Total	4,510,289	84.59	244,454	125.90

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,697,386	68.52	68,000	106.57
2 日本	Japan	632,473	106.00	26,847	146.56
3 イタリア	Italy	534,502	129.60	22,832	182.77
4 パキスタン	Pakistan	476,671	102.63	19,600	148.45
5 ドイツ	Germany	202,213	68.30	7,535	80.81
6 韓国	South Korea	189,531	93.82	7,847	132.48
7 タイ	Thailand	150,802	171.12	6,384	241.18
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0,376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	86,871	110.16	3,364	160.01
10 ベトナム	Vietnam	55,208	97.92	2,225	157.13
11 その他	Others	258,693	108.99	10,760	155.24
合計	Total	4,371,913	88.74	175,770	129.03

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	573,806	49.30	31,241	72.19
2 日本	Japan	475,359	114.60	27,448	165.62
3 イタリア	Italy	386,519	114.19	22,436	169.73
4 パキスタン	Pakistan	156,831	47.45	8,765	68.73
5 ドイツ	Germany	120,493	84.28	5,891	114.67
6 韓国	South Korea	118,421	88.88	6,457	124.48
7 タイ	Thailand	105,207	105.03	6,111	152.10
8 インドネシア	Indonesia	56,348	81.91	3,069	121.63
9 マレーシア	Malaysia	28,117	943.84	1,466	1,241.23
10 ベトナム	Vietnam	27,567	102.89	1,419	150.68
11 その他	Others	102,105	47.06	5,429	95.10
合計	Total	2,150,773	73.16	119,732	109.39

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	56,715,405	86.28	194,688	121.16
2 パキスタン	Pakistan	52,802,642	116.96	133,167	149.68
3 イタリア	Italy	49,555,469	136.42	173,431	164.48
4 香港	Hong Kong	17,082,170	99.57	90,484	120.59
5 韓国	South Korea	15,521,720	91.28	70,217	110.96
6 日本	Japan	11,648,919	102.17	39,907	133.54
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	8,469,624	92.62	31,330	109.83
8 マレーシア	Malaysia	7,832,855	85.90	38,012	125.04
9 シンガポール	Singapore	7,482,141	72.13	30,155	82.34
10 アメリカ	United States	6,024,523	110.33	35,272	117.48
11 その他	Others	40,723,405	115.50	155,883	133.41
合計	Total	273,858,873	104.48	992,546	129.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 パキスタン	Pakistan	28,288,639	110.06	93,288	151.00
2 イタリア	Italy	25,549,349	75.54	138,709	125.13
3 インド	India	20,401,565	52.46	92,051	74.69
4 韓国	South Korea	9,642,449	89.68	57,693	125.84
5 香港	Hong Kong	8,604,029	84.06	58,144	115.66
6 日本	Japan	7,558,846	98.32	33,335	135.50
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	5,411,916	92.40	26,408	129.27
8 マレーシア	Malaysia	4,486,874	83.03	27,643	113.80
9 米国	United States	4,049,449	99.57	28,814	126.65
10 チュニジア	Tunisia	3,787,602	102.40	6,649	122.29
11 その他	Others	26,178,517	92.18	137,356	121.45
合計	Total	143,959,235	82.49	700,090	116.18

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額（億元） Wage Bill(100million yuan)				対前年増減率（%） Indices(preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,173	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,324	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,935	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,290	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,745	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,912	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,292	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,921	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,488	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,863	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5

資料：中国統計年鑑(2010)

Source: China Statistical Yearbook 2010

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名目賃金Average Wage				実質賃金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8

資料：中国統計年鑑2010 Source:China Statistical Yearbook 2

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産 業 別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356
採掘業Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038
製造業Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869
建築業Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860
金融業Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398
不動産業Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159
家庭サービス業Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172
教育Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326
合 計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244

(出所)中国統計年鑑2010

Source: China Statistical Yearbook 2010

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
製造業 Manufactur	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340
合 計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416
年別人民元yuan／円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2009年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	57,779	808,906	179.19
天	津	Tianjin	43,937	615,118	136.26
河	北	Hebei	27,774	388,836	86.14
山	西	Shanxi	28,066	392,924	87.04
内	蒙	Inner Mongolia	30,486	426,804	94.55
遼	寧	Liaoning	30,523	427,322	94.66
吉	林	Jilin	25,943	363,202	80.46
黒	龍	Heilongjiang	24,805	347,270	76.93
上	海	Shanghai	58,336	816,704	180.92
江	蘇	Jiangsu	35,217	493,038	109.22
浙	江	Zhejiang	36,553	511,742	113.36
安	徽	Anhui	28,723	402,122	89.08
福	建	Fujian	28,366	397,124	87.97
江	西	Jiangxi	24,165	338,310	74.94
山	東	Shandong	29,398	411,572	91.17
河	南	Henan	26,906	376,684	83.44
湖	北	Hubei	26,547	371,658	82.33
湖	南	Hunan	26,534	371,476	82.29
広	東	Guangdong	36,469	510,566	113.10
広	西	Guangxi	27,322	382,508	84.74
海	南	Hainan	24,790	347,060	76.88
重	慶	Chongqing	30,499	426,986	94.59
四	川	Sichuan	28,149	394,086	87.30
貴	州	Guizhou	27,437	384,118	85.09
雲	南	Yunnan	26,163	366,282	81.14
西	蔵	Tibet	45,347	634,858	140.64
陝	西	Shaanxi	29,566	413,924	91.69
甘	粛	Gansu	26,743	374,402	82.94
青	海	Qinghai	32,481	454,734	100.74
寧	夏	Ningxia	32,916	460,824	102.08
新	疆	Xinjiang	27,617	386,638	85.65
全国平均		Average	32,244	451,416	100.00

(出所) 中国統計年鑑2010 Source: China Statistical Yearbook 2010

(注) 1元=14円 Note: 1yuan=14yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 〔Estimate〕	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 〔Estimate〕	557,000 (72%)	9,283

資料：ブラジル製糸協会

注：()内は対前年比

[]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料: ブラジル製糸協会

注: *印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: *Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2011 年 11 月号 NO.21 平成 23 年 11 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず